

雪の音

ゆき おと

平成25年10月15日発行 Vol.119



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

巻頭言…知ってもらうための努力	
国土交通省 北陸地方整備局長 野田 徹	1
特集…一般国道49号 揚川改良	
～安全・安心な道路が開通し「始終苦勞(しじゅうくろう)」を返上！～	
北陸地方整備局 新潟国道事務所	2
随想…旅路に想う愛犬	
田中 美知子	6
寄稿文…初めての韓国訪問からその後の訪韓(その1)	
山岸 俊男	9
ちょっと気になるコーナー…「神無月と神在月」	
中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎 康裕	14
お知らせ…平成25年度「小学生のための出前講演」新潟市立大形小学校	
広報部会	16
石川地区社会貢献活動『白山外来植物除去作業』	
石川事務所	19
社会貢献活動「平成25年度ふるさと美化大作戦」参加	
富山事務所	21
平成25年度道路・トンネル技術講習会 参加報告	
「北陸の地盤について」「交通事故発生状況と道路交通安全対策」	
技術部会 道路委員会、トンネル委員会	22
平成25年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会	
北陸支部業務・研究発表会WG	25
平成25年度 建設コンサルタンツ協会「北陸支部災害時対応演習」と	
「北陸地方整備局との情報伝達訓練」	
総括部会	27
建設コンサルタンツ協会「防災講演会」(ご案内)	
釜石の奇跡に学ぶ～想定外の災害にどう備えるか	29
第28回 北陸雪氷シンポジウム in 福井(ご案内)	30
支部活動報告	事務局 32
会員名簿	
各部会・委員会委員名簿	事務局 38
編集後記	熊倉 孝次

題 字 元北陸地方建設局長
廣瀬 利雄 揮毫
表紙写真 越後丘陵公園コスモス祭り
撮影地 新潟県長岡市
撮影者 猪俣 孝之



知ってもらうための努力

国土交通省 北陸地方整備局長

野 田 徹

7月1日付で北陸地方整備局に参りました野田と申します。北陸地整での勤務は初めてですが、建設コンサルタンツ協会北陸支部の皆様のご協力も得ながら、着実に当地域での社会資本の整備と管理を進めて参る決意です。どうかよろしく願いいたします。

さて、着任以来3ヶ月近くが過ぎました。この間、実に多くの皆様方にご挨拶し、様々なお話を伺う機会がありました。名刺の枚数の減り具合に、名刺の増刷を頼んでいる職員共々驚いています。これほど多くの方々に短時間でお会いするのも初めての経験ですが、お目にかかった皆様、特に、地方自治体の首長の皆様が異口同音におっしゃることがあります。それは、「北陸地整の行っている直轄事業は大変ありがたい。着実に（または早急に）整備を進めてもらいたい。」ということです。また、もう一つ皆様からいただくお話は「北陸地整の災害対応力に期待している。もし災害が発生したときには、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）はじめ、北陸地整の協力を是非お願いしたい。」というものです。これだけ地域の皆様に大きな期待を寄せていただいているのだと、文字通り身が引き締まる思いです。この期待に応えるためにも、しっかりと事業を進めるとともに、防災体制を充実させて参ります。

さて、事業を進めるには、国民、住民の皆様のご理解やご賛同を得ることが必要なのは当然のことです。このため、これまで様々な手法を用いて広報を行ってきていますが、最近、その広報について「そうか。なるほど!」と思うことがいくつかありました。

昨年5月に東京スカイツリーが開業しました。高さ634メートル。世界一高い電波塔です。開業後、各テレビ局で特番が放映され、スカイツリーが詳しく紹介されていました。ご覧になった方も多いと思います。このうちNHKの番組は、スカイツリー建設の過程を、耐震設計をはじめとした設計の考え方、基礎部分の施工、工場での鉄骨加工と組み上げ工程、クレーンの仕組みと操作、精度管理、東日本大震災時の対応など、詳細にわたって解説していました。大変わかりやすい番組で、その後も何回か再放送されていたようです。番組中、出演したタレントは「すごい!」を連発。視聴者も同じ感覚で見ていたのではないかと、思います。

ここで私が「なるほど!」思ったことは、タレントの「すごい!」。これが広報のポイントの一つだということです。一般の方々は「世界一高い東京スカイツリー」に漠然と凄さを感じるのですが、積み重ねられた技術の一つ一つにも凄さを感じているのです。これはこの番組のように一つ一つの技術を見せないとわからないことです。

私たちの行っている社会資本整備も、そこで使われている技術や要素を丁寧に説明することで、その事業をより知ってもらえると思うのです。そんな努力を私たち社会資本の整備と管理に携わる者は、持ち場持ち場で続けていくことが大切だと痛感しています。

一般国道49号 揚川改良

～安全・安心な道路が開通し「始終苦勞(しじゅうくろう)」を返上!～

北陸地方整備局
新潟国道事務所

1. はじめに

一般国道49号は、太平洋側（福島県いわき市）と日本海側（新潟県新潟市）を結ぶ主要幹線道路である。さらには、県内の一般国道49号沿線市町と新潟市を結ぶ幹線道路として地域経済・日常生活を支える重要な役割を果たしている。

新潟県東蒲原郡阿賀町大牧～黒岩間の区間は、急峻な岩盤斜面が一級河川阿賀野川に迫ってきていることによる幅員狭隘・線形不良箇所が存在していることに加え、同区間の本尊岩・谷花地区は土砂災害、岩石崩落及び雪崩等の危険箇所が存在している。さらには、連続雨量（150mm）による事前通行規制区間が設定されているなど多くの問題を抱えている。

これらの問題を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的として、一般国道49号揚川改良の整備を進めてきた。

本報告は、揚川改良の概要および整備効果などについて紹介するものである。

に整備されたルート（以下「旧道」）であるが、旧道の東蒲原郡阿賀町大牧～黒岩間においては、以下の3つの課題があげられる。

- ①本尊岩・谷花地区に岩石崩落の危険箇所がある
- ②連続雨量(150mm)による事前通行規制区間がある
- ③一級河川阿賀野川と急峻な岩盤斜面に挟まれた地形であることから、幅員狭隘・線形不良の箇所がある



図－1 位置図

2. 揚川改良

一般国道49号の阿賀町津川～黒岩間は阿賀野川右岸



図－2 揚川改良ルート図

3つの課題に対応するため、昭和53年度に揚川改良として事業化し、落石防止のための法面对策や、狭隘な幅員への対応として阿賀野川側への道路補強工事などを進めてきた経緯がある。

しかしながら、本尊岩・谷花地区において発生した平成4年および平成7年の新潟県北部地震の余震による大規模な岩石崩落や、平成8年2月に北海道で発生した一般国道292号の豊浜トンネル岩盤崩落事故を契機として、「一般国道49号本尊岩地区防災対策検討委員会」を開催し同地区の防災対策工の検討や、日常の点検、監視体制等の検討を行った。

委員会での検討の結果、「本尊岩・谷花地区は岩盤斜面やその亀裂状況、岩盤の劣化等を考慮すると抜本対策は困難であり、現道の危険性を考慮すると恒久対策としては別線ルートで回避する以外にない」との結論に達したことから、平成12年度より阿賀町津川～黒岩までの延長7.5kmの阿賀野川左岸の別線ルート（以下：「新道」）の整備に着手したものである。



図ー3 落石防止のための法面对策



図ー4 阿賀野川側への道路補強工事

3. 揚川改良の開通

平成12年度より当事務所において整備を進めてきた、

揚川改良（新道）は平成25年3月30日15時に開通した。

開通に先立ち開催した開通式ではテープカット、バルーンリリース、開通パレードが、地域住民も参加し華やかに執り行われ、開通を祝った。



図ー5 テープカット（平成25年3月）



図ー6 開通パレード（背高コンテナも参加）



図ー7 開通後の状況（小花地大橋）（平成25年5月）

4. 揚川改良の効果

(1) 安全で安心な道路

旧道の阿賀町大牧～阿賀町黒岩の区間には、本尊岩・谷花地区が存在している。同地区においては、現在も岩石崩落の危険性が高い箇所が確認されており、過去にも平成4年の融雪による岩石崩落や平成7年の新潟県北部地震の余震による大規模な岩石崩落等が発生し、通行止め

や片側交互通行などの通行規制を余儀なくされている。

新道の開通により、岩石崩落の危険性の高い本尊岩・谷花地区を回避し、安全・安心で快適に通行できる道路となった。

また、旧道の阿賀町大牧～黒岩までの区間については、事前通行規制区間に指定されていることから、平成25年3月30日15時の新道の開通に合わせて通行止めとしている。



図－8 新潟県北部地震の余震による大規模な岩石崩落(平成7年)

(2) 信頼性の向上

旧道の阿賀町大牧～黒岩間は、度重なる土砂災害、岩石崩落の危険にさらされ、連続雨量（150mm）による事前通行規制区間に指定されている。

最近の事例としては、平成16年7月および平成23年7月の新潟・福島豪雨において、規制雨量以上の降雨によって通行規制が実施されている。

また、阿賀野川増水時には道路冠水や道路の決壊陥没による通行止めも発生していた。



図－9 大雨による通行規制（平成16年）

新道の開通により、阿賀町大牧～黒岩間の事前通行規制区間（150mm）を回避することが可能となり、主要幹線道路としての信頼性の向上が期待されている。

(3) 走行性の向上

旧道の阿賀町津川～黒岩間には、幅員狭隘箇所として麒麟橋、本尊岩トンネル、揚川トンネルがあり、大型車のすれ違いが困難な状況であった。また、本尊岩トンネル・揚川トンネルは、高さ制限が設定されており、背高コンテナなどは通行することができなかった。

新道の開通により、揚川トンネルや本尊岩トンネルを回避することが可能となった。さらに、トンネル断面が大型化したことにより、高さ指定道路となり、高さ4.1m以下の車両については、障害無く通行が可能となった。これにより、今まで高さ制限により旧道を通行できなかった背高コンテナなども通行可能となり、物流の効率化と走行性の向上が期待されている。



図－10 開通前のすれ違い状況（揚川トンネル）
（平成25年3月）



図－11 開通後のすれ違い状況（赤岩トンネル）
（平成25年4月）

5. 整備効果の発現

整備効果の主な事例としては、新道開通後の平成25年7月18日16時頃、旧道の大牧地区において約150mにわたり路肩および道路面の崩落が発生した。被災箇所は、大牧地区と阿賀町中心部を結ぶ唯一のルートとなっている。

安全確保のため、17時頃より全面通行止めを行い、約2時間で安全を確保する迂回路を設置し、片側交互通行による通行を確保した。これにより、日常生活に欠かせないスクールバスや宅配便のトラックも通行可能となった。

その後、19日10時には、被害拡大防止工事に着手し、近隣事務所の支援を受けつつ、24時間体制を確保し、速やかに施工を行った結果、被災から74.5時間で被害拡大防止工事を完了した。

しかし、9月1日現在においても被災箇所については、迂回路（L=200m）および一部片側交互通行（L=100m）が継続している状況である。

一方で、3月に開通した新道については被害が無かったことから、福島～新潟間の国道49号を利用する主交通への影響は発生しなかった。この効果は、揚川改良の整備により安全・安心な道路としての効果を発揮したものと考えている。



図-12 崩落発生（H25. 7.18）



図-13 被害拡大防止工事完了（H25. 7.21 18時）



図-14 新道部の交通は影響なし（H25. 7.20）

6. その他の整備効果（利用者ヒアリング）

揚川改良の開通後に、その他の整備効果を把握するため、医療関係者、物流事業者などの国道49号利用者に話を伺った。主なものを以下に示す。

【その他の整備効果】

- ・国道49号の高さ制限が無くなったため、工事等で高速道路が通行止めとなっても待機する必要がなくなった。【物流事業者】
- ・国道49号は始終苦勞（しじゅうくろう）すると言われていたがそれが無くなった。【福祉関係者】
- ・訪問医療を実施しているが、医師が病院を開ける時間が少なくなり、効率的な医療活動を支援すると期待。【医療関係者】
- ・大雨による通行規制がなくなり、バスの運行計画への影響が無くなった。【バス事業者】
- ・急カーブがなくなり、救急車内での患者の処置がしやすくなった。揚川改良と高速道路の2本の信頼性の高い道路ができて安心感がある。【消防署】

7. おわりに

国道49号揚川改良の開通により、連続雨量（150mm）による事前通行規制区間などが迂回できることから、災害に強い道路ネットワークが形成されるとともに、車両の高さ制限があった揚川トンネル等を迂回することにより、国際コンテナなどの通行が可能となり、物流ネットワークが強化された。

さらには、麒麟山などの観光地へのアクセス強化や近隣の工業団地への企業誘致の促進など、地域の産業や経済活動に寄与し、魅力ある地域の発展に大きく貢献するものと期待している。

旅路に想う愛犬

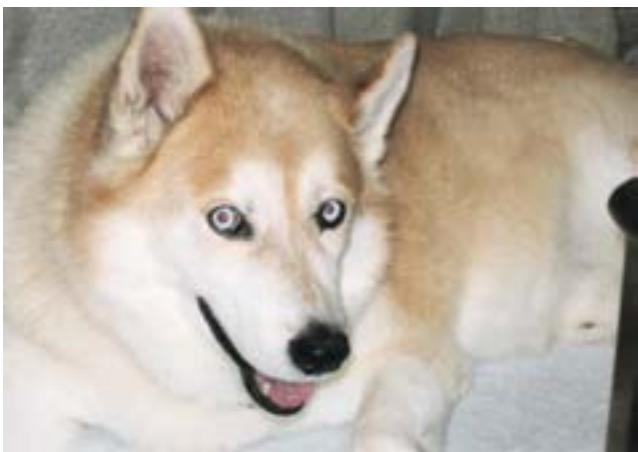
田 中 美知子



久しぶりに、長野方面に行ってきた。泊りがけで出掛けるのは、娘と去年のゴールデンウィークに鎌倉へ行って以来だ。

それというのも、去年の夏以降私の周囲では肉親の入院騒ぎが続き、手術の付き添いや諸々の手伝いで、あちらの病院こちらの病院と、まさに駆けずり回るような毎日を過ごし、それがひと段落した後、今度は愛犬の病気が判明し残念ながら天国へ旅立つまでの5ヶ月あまり、犬と私たち家族との闘病の日々があったからだ。

夫の運転で長野県松本市へ向かう車中でも、時折今年の春先に死んだシベリアンハスキー、ジョイのこと



愛犬ジョイ

が思い出された。旅行でペットホテルなどへ預けても、大方の愛犬家がそうであるように、犬はどうしているかと気になって、帰る頃には迎えを待っているだろうとすっかり気もそぞろで、楽しかった旅行のことなどそっちのけで、ペットホテルへのちょっとした土産持参で駆けつけたものだ。

もうジョイはいないのだから急いで迎えに帰らなくともいいと気付くと、安堵する思いとしみじみ寂しい気持ちにもなった。

新潟を出る時は、前日までの雨模様とは打って変わってすっきりと晴れたが、長野でも夏の青空が広がっていた。車が松本市内に入ると、比較的低いビルや家並みの間から、青灰色の山が見えた。四方を山に囲まれた町なのだと改めて感じる。まだ夏が始まったばかりなのに、ひまわりに混じって濃いピンクや紫色の木槿の花が咲いている様子が晩夏を思わせ、旅情が胸に迫った。以前、御盆休みの頃はどこも混むので、大抵夏休みの終わりに、母親や子供達を乗せて賑やかに旅したことを思い出した。

蕎麦どころ信州らしく、通りのそこここに「自家製粉石臼引き」だの「本格手打ち十割」などの看板が目につく。「明日のお昼は蕎麦だな」と夫が言い、私は好物の蕎麦がきが食べられるかな？とわくわくする。結局、翌日2、3軒のぞいた店には生憎蕎麦がきはなかった。蕎麦粉を練って蕎麦がきを作るのは、なかなか大変な作業らしいので、余程のこだわりの店でないと出さないということだろうか。折角信州まで来たのにと、少し残念であった。

初めて訪ねた国宝松本城。400年以上も昔に作られて現存する天守は、市民から烏城と呼ばれているように「黒い城」という印象の、堅牢さの際立つくっきり



国宝松本城

と美しい城だ。傾斜 60 度の狭く急な階段を上って天守閣にたどり着くのだが、これが運動不足の身にはかなりこたえた。しかしエレベーターなど観光向けに考慮されていないところが、かえって往時の人の気分を味わえたようで、なかなか楽しい経験だった。

旅の途中でも、何かにつけジョイのことが心に浮かんだ。散歩が何より好きで、吹雪く日も具合が悪くてぐったりしている日でも、時間になるとむっくりと起き上がって行ったので、いなくなってからは私の歩数計の数字が十分の一になった。

弥彦山を放浪しているところを保護され、縁あってわが家に來たのが 7 年前。当時推定 3、4 歳のシベリアンハスキーの男の子だった。それ以前、やはりハスキー犬のキャロルと 14 年間ともに暮らしたので、ハスキーについて少しは知っているつもりだった。だが、初めてボランティアさんが連れて來たジョイを見て、なんておっかない顔をした犬だろうと思った。放浪中にどんなにこわい思いをしたのか、夢を見てはよくうなされ、揺り起こした。フィラリアの薬やワクチンの投与や去勢手術も済んでいて、庭にいても必ずハウスの中の敷物を引っ張り出して敷いている様子が、以前大切に飼われていたことをうかがわせた。それならばなぜ？と思ったが、今となっては永遠の謎だ。

果たして我が家に馴れてくれるだろうかと心配したが、本来のジョイは、とてもおとなしく優しい性格で、家族みんなにすぐに懐いた。怒ったことが一度もなく、黙って家族のそばにいるのが好きだった。いつの間に

か、顔つきも別の犬のように穏やかになった。いつも娘と私がおしゃべりする足元に丸くなり、井戸端会議に自分も参加しているつもりのようだった。

ある時、娘がお菓子を作るためにヒーターのそばの床に置いて解凍していた 1 キロ近くの高級バターをあっという間に食べてしまい、私に叱られた。その時の意外な逃げ足の速さにも驚かされたが、しかし落ちている物？なら何でも食べなければ生き延びられなかった境遇を思い、叱ったことを後悔した。

昨夏は例年にも増して暑さに弱くなり、歩き方もとぼとぼとして來たので、随分年を取ったなと思っていた。そんなある晩、発作的な呼吸困難に襲われた。時間外だったが、運良く近所の獣医さんに診ていただくことが出来た。その結果、甲状腺の腫瘍が疑われ、これから先のことも告げられ、暗澹とした。だが、かなりの高齢で繊細なジョイを一人で入院させるにはしのびなく、獣医師の真摯で丁寧な説明と家族間の話し合いで、手術はせず緩和ケアをお願いするという方向に決めた。

病状が悪化してからは、見ていても辛い日々となったが、ジョイはじっと耐えていた。血尿で室内が汚れるのを気にしてか、倒れて硝子戸に激しくぶつかりながら、何度も外に用足しに出て行った。発作止めや痛み止めの注射を打ちながら、よろよろした足取りでも最後の日まで大好きな散歩に行った。

無心に今日を生きているようで、それでいて死の数日前、雪の庭に腹ばいになり、あるいはお気に入りの庭のマロニエの木の下に伏せて物思いに耽る姿は、何かを感じているようにも見え、近寄り難ささえ覚えた。

そんな姿を見ていると、犬の死に方のあっけないような感じと、潔さを思わずにはいられなかった。

最後の数ヶ月は、いつでも飛んで來て、出來うる限りの対処をして強い支えと救いになってくださった年若く優しい獣医師と、親切で世話好きな医師のお母さんに心から感謝した。

我が家のキッチンの出窓から、大通りを挟んで真向かいに、黒い外壁、グリーン看板、階段に鉢植えの花が飾られたお洒落な動物病院が見える。まるでストーカーのような怪しさで、つい病院の様子をうか



安曇野ジャンセン美術館にて

がってしまう。診察に来た車が止まっているのを見ると、はやっているなと嬉しくなり、玄関の辺りに獣医師やお母さんの姿が見えると「おい」と手を振りたいたい気持ちになる。

旅の二日目は、松本市から安曇野へ。安曇野の森に囲まれた、瀟洒なジャンセン美術館を訪ねるのは数年ぶりだった。この日もジャンセンの描く白やバラ色のチュチュをつけた華奢な「バレリーナ」たちが迎えてくれ、心ときめいた。しかしそれ以上に今回は、茫々としてなお且つ透明感溢れる、ゴンドラや舢舨の風景を描いた「ベニスシリーズ」にひかれた。

安曇野アートヒルズミュージアムの中にあるエミール・ガレ美術館では、雑誌やデパートの展示場でわずかにしか見たことのなかったガレのガラス作品を堪能した。自然を愛したガレの作品を見ていると、その模様のはかなげな水草や、生まれたての小さな昆虫たちと一緒に、小川のせせらぎの中をゆらゆらとたゆとうような、不思議な安らぎを覚えた。

緑したたるわさび農園で、ソフトクリームに目のない私は、早速人気のわさびソフトを食べてみた。わさびの辛さはなくまあまあの味だが、前日梓川サービスエリアで食べたものの方が、濃厚でおいしかったかなと思ったりする。

短い旅だったが、久しぶりに新しい刺激と楽しさに、心地良く満たされた。ジョイが死んでから、ずっと病気になるからの姿ばかりが思い出されていた。しかしこの旅のあと、ようやく少しずつ、面白かったジョ

イのエピソードなどを夫と話すことが出来るようになった気がする。

そして大柄でふかふかな毛並み、ブルーの瞳のジョイは、美しいハスキー犬だったとしみじみ思い出す。要求が少なく遠慮がちだったせいか、時に本当にジョイと7年も暮らしたのだらうかと思うこともある。しかし舗道に散り敷いた落ち葉を踏みながら、雪あられに打たれて同時に立ち止まりながら、ジョイとゆっくりゆっくり一緒に歩いた記憶が、悲しいのではなく静かで清らかなものとして、いつでも蘇って来るのだった。



プロフィール

田中美知子

- 1950年 新潟市生まれ
- 1993年 サッポロビール ハガキエッセイ「私の冬物語」優秀賞
- 1994年 「扉を開けたら」ロマンの泉美術館物語に執筆
- 2003年 住友信託銀行「60歳のラブレター」金賞他

初めての韓国訪問からその後の訪韓 (その1)



山岸 俊男

私が初めて韓国を訪問したのは、1989年（H元年）新発田土木事務所に勤務していたときである。きっかけは、事務所近くの高沢組社長高沢氏が市内の小学生による韓国ウイジョンブ市と毎年スポーツ交互交流をおこなっていた。何とか土木事業でも子供たちの交流が図れないか、と思いをめぐらしていた。

そんな折、駅前通り商店街や中央商店街などの方々と歩道アーケード改修に伴い来客者サービスのために、歩道のセットバックによる路上駐車帯を確保しようと議論したが、結果的にまとまらなかった。そこで、子供たちの絵を歩道アーケード内に展示する提案をしたところ同意を得た。

絵は8月10日が「道の日」である、その日に向けて市内の小学生から自分の住まいの街や道の絵を描いてもらうことにした。早速新発田市教育委員会へ出向き市内の小学校へ依頼したい旨を伝えたところ、「最近の小学生は絵を描くに大変忙しいので無理でしょう」とのこと。「えッ、そんなに忙しいんですか」と尋ねたところ、「交通安全月間のポスター、火災防火月間のポスター、海の日・・・、清掃・・・と多いので・・・」なるほど、言われてみると多忙である。ここで引き下がっては、商店街の方々に申し訳ないので、「強制はしません。各校1枚でも2枚でも、20～30枚集まれば」と懇願したところ、ようやく了解を得ることができたのである。

そして、応募のあった学校の中で、赤谷小学校は生徒数も少ないのに10枚ほどの応募があり感謝感激であった。中心部の二葉小学校では120枚ほどの提出があり、驚きと感動であった。結果的に絵は150枚を越える枚数が集まった。教育委員会からは40～50枚集まれば良い方でしょうと言われていたので、建設業協会新発田支部青年部とは50枚の展示準備を進めていたのである。

急遽、大きく計画変更を余儀なくされ、額に入れての展示から栈木に挟む展示となった。展示期間中に破られはしないかと心配したが、新発田市民はマナーもよく、一枚も破損することなく終えることができたのである。

展示期間は8月10日から新発田夏祭りの終了までとし、初日は道の日であることから、道路に関するイベントを企画した。それは駅前通りを正午から3時間ほど交通止めをして、建設機械や除雪機械、道路パトロールカーなどを展示し、自由に試乗してもらった。路面にはチョークで自由に絵をかいてもらい、また商店街からは金魚すくいや水を10mほど並べてその上を裸足で歩く遊び場などを提供してもらった。

この企画には新発田市とともに警察、教育委員会、商店街、新潟日報新発田支局、中でも力になっていたのが建設業協会新発田支部青年部と当事務所若手職員であった。建設機械の試乗会では、乗るとき、車内の説明、下りるときの補助・説明員を配置し、安全に配慮した。子供たちから人気が高かったのは、運転席の高いグレーダーとサイレンの音と赤色回転灯の道路パトロールカーであった。

当日のイベント終了後は、特に交通止め区間へ進入する車両への協力要請などの裏方に回ってくれた建設業協会新発田支部と当事務所若手職員へのねぎらいを兼ねて関係者全員で近くの諏訪神社の豊谷殿にて反省

慰労会をやり、建設業協会新発田支部と当事務所の一体感が強まった。

このようにして発注者と施工者、関係する団体などと一緒に地域振興に資するイベントを企画して、一緒に行動することにより一般市民に対しインフラ整備への理解と信頼感が醸成された。

また、施工者との関係においては、施工中などでお互いに困った時、トラブル発生時などにすぐに相談し合える話し易い雰囲気づくりができた。

試乗会や展示期間も終わり、絵の返還と御礼に各小学校へ廻って、二葉小学校長へお礼に伺うと当校には絵に熱心な先生がおられて・・とのこと、やはり先生の熱意は子ども達へ通じていると感じたのである。当時われわれの日常業務の工事説明会や用地交渉にも通じると思ったのである。

そして、これほど多くの絵を応募いただいたので、この絵をもとに海外の小学校と交流をしませんか？と伝えたところ、大賛成を得た。中国山東省済南市に私の友人李克強さんがいるので、その小学校と絵の交流を始めようと考えたのである。

李克強さんとは、私が「土木技術」という雑誌に投稿したY型Z型擁壁という記事を見て、ぜひ中国の土木雑誌「公路」へ中国語に翻訳投稿したいのでと了解を求めてきたのが縁で、お付き合いをするようになった。彼は済南高等専門学校の土木科の教員である。

話を元に戻して、当時新発田市長の近さんへその旨を伝えたところ、「いや中国は止めて、韓国ウイジョンプ市とやってほしい」との強い要請があった。

そのころ韓国の領事館は、白山浦にあって、そこへ120枚の絵を持参して趣旨を話し、交流のお願いをしたなら、「国同士の案件は取扱うが、民間の案件は扱いません」と断られたのである。困ったが、ここで引き下がっては意図したことが切れるので「ウイジョンプ市の誰か日本語の話せる人を紹介してほしい」と食い下がったら、同市の金副市長を紹介してもらった。

しかしウイジョンプ市役所へ電話をしても金副市長が直接でることもないので、はじめての韓国語による電話のやり取りを当時新発田市職員で通訳担当していた高橋美恵子（現齊藤）さんから「ヨボセヨ、イルボ

ン・・・」とみっちりとにかく勉強による指導を受けた。

そして韓国ウイジョンプ市役所へ電話を入れ、なんとか金副市長へつながったので、趣旨を話し理解してもらい、絵の交流を始めることができたのである。

その後がまた大変であった。1ヶ月後ほどして1階の財務事務所から「だれだ！海外へ電話したやつは？3千〇〇円を払え！」とどなられたのである。結末は事情を話して一件落着したが、土木屋がこのようなことをやると、いろいろと物議をかもしことになる見本でもある。

近年の土木部職員は、多忙でこのようなことまで手出しができず、やろうとしても同僚や上司からの協力や理解を得にくい現状にあるのかなと思って少し残念でもある。

そのようなことから始まった絵の交流がもつて、スポーツ交流団と一緒に韓国ウイジョンプ市を訪問する機会を得たのである。これが私にとって初めての韓国訪問である。

ウイジョンプ市長を表敬訪問したときに市庁舎の1階ホールの展示室に私が送った絵が展示してあり、同行の子供たちの中に自分の絵や友人の絵を見つけて喜ぶ様子を見て、絵の交流を始めてよかったと強く感じたのである。

そして、翌年にはウイジョンプ市のスポーツ交流少年団の団長として来新されたウイジョンプ市長から同市の絵を持参いただき、新発田市の歓迎レセプションの中で、絵の贈呈セレモニーを企画していただき感謝感激である。

翌日いただいた絵は、すぐに商店街に展示したところ、ウイジョンプの子ども達が自分の絵や友人の絵を見つけ喜び、付き添ってきた親子などは大きな感動であったと思われる。



ウイジョンプ市長から同市の小学生の絵を受け取る（歓迎レセプションにて）



韓国の子供達から届いた絵

このときのことは、私にとって生涯大切な思い出であり、当時やらせてもらった土木所長や同僚、後輩の方々、ご協力いただいた方々に今も感謝しています。そのときが縁で今でも多くの方々と接点がつづいており、大変うれしいことで私の宝でもあります。

2回目の訪韓は、絵の交流が続いていることもあって、平成4年の夏にスポーツ交流の訪韓ウイジョンプ市行きの機会に恵まれた。そのときソウルからウイジョンプ市へ行く道中での強烈な印象が忘れられないので、そのことを記述しておきたい。

ウイジョンプ市はソウル特別区から北へ20kmほどのところに位置しており、当時金浦空港からバスで移動していたときに、漢江に架かる幸州大橋を渡っていると、すぐ隣に平行して新幸州大橋が工事中であるのに、主塔が折れ曲がり中央部が連続して落橋しているではないか！これはどうしたことかと尋ねたが、ウイジョンプの方々は技術者でないため「よく解らないが格安受注による手抜き工事だ」との回答であった。

その時、昭和56年に小千谷大橋の工事中の桁が強風で落下した事故を思いだした。この時は鋼桁の架設中で、最初の桁を架けてその日の作業が終わったが、架けた桁を橋脚に固定してなかったため、強風で橋脚上面をすべり移動、落下して、アメのように曲がってしまったのである。

橋梁工事で手抜きなどすれば、落橋もあり得るであろうと思ったが、なぜ落ちたのか原因は？ずっと気になっていた。



新幸州大橋の落橋の様子：右側の幸州大橋をバスで通過しながら衝撃的な光景は、忘れられない

絵の交流は、その後しばらく続けられる中で、他に新発田市民からも歌や踊りなどの文化芸術の交流が始まったが、日本と韓国の間に教科書問題や竹島問題など政治的な問題が生じて各種の交流が途絶えた。しかしスポーツ交流は中断もあったが、現在、子ども達のスポーツ交互交流は続いている。

また平成17年に加治川村との合併により、同村が平成11年から韓国京畿道漣川郡全谷邑と北緯38度線上の村同士として、子ども達の交流が行われていたので、現在はそこの交流が更に加わっている。

3回目の訪韓

その後、新潟県を退職して㈱キタックにお世話になった。社長の中山輝也氏は多才な方で海外、特に対岸諸国の中国、韓国、ロシアなどとの技術交流を深めていた。そんな折、平成15年に日韓技術士会議が韓国東草市で開催されるので、何か発表をしないかと誘われたのである。

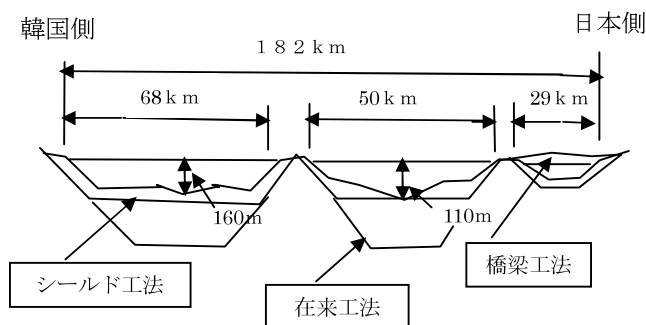
そこで第1分科会の「物流、リサイクルと環境」の物流で環日本海物流ルート構想を提案した。日本列島は日本海国土軸を中心に北海道から九州までのルートがつながっている。課題は海峡部で対馬海峡、間宮海

峡、宗谷海峡である。

日本から韓国へ渡る対馬海峡は、かなり前から日韓トンネル構想が叫ばれ、ルート、工法等も検討されている。



環日本海物流ルート構想



対馬海峡横断面図 日韓トンネル工法案

対馬海峡には、壱岐と対馬の2つの島を経由して釜山へ渡るルートが最も実現性が高い。工法的には海底トンネルとなるが、シールド工法と在来工法が考えられる。在来工法は、青函トンネルのように海底からト

ンネル上面までの被り（厚さ：青函は100m）が必要となり、ある程度深くなる。一方シールド工法の場合は被り厚さは低減できトンネル延長の低減も図れる。

また壱岐と九州間は、シールド工法の他に、水深も浅いことから海上橋梁案も考えられる。

この九州から韓国へのルートが、実現していない理由の一つは、自由経済圏が韓国だけであり英仏ユーロトンネルと大きく異なるものである。



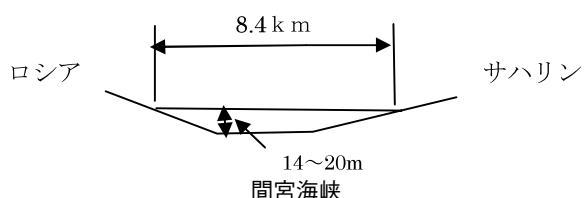
第1分科会「物流、リサイクルと環境」での発表
(当時は OHP を使用しての発表である)

環日本海物流ルートのアジア大陸内のルート案は、韓国（釜山⇒ソウル）から北上すると北朝鮮（平壤）、中国（瀋陽⇒長春⇒哈爾濱）、ロシア（ハバロフスク⇒ラサレフ）となる。これらの地域は鉄路、道路でつながり、これら地域が拠点となって周辺地域への波及効果を期待するものである。

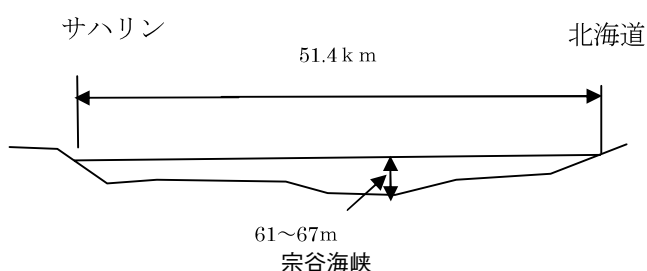
間宮海峡は、本来、「松田・間宮海峡」と呼ばれてもおかしくないが、これに触れると長くなるので少しだけ記述する。松田伝十郎は頸城郡鉢崎村（現柏崎市）出身で江戸時代に間宮と共に蝦夷地調査にあたり1808年樺太（サハリン）の西海岸を松田が、東海岸を間宮が小舟にて島であるか、大陸の半島であるかの調査を行った。

間宮は太平洋側の東海岸沿いに行くが、波が荒く途中で断念し江戸に戻る。松田は北上を続け島であることを確認して江戸に戻り、幕府に報告した。いろいろあって翌年間宮は再度、樺太調査に入り大陸側にも渡り現地人との聞き取り調査などを行っている。

間宮海峡は、延長8.4km水深も浅く14～20mであるが、冬期を考慮してトンネル案が有力でシールドまたは沈埋トンネルであるが、沈埋は施工上、海流などに影響を受けるが、水深的には条件が良い。そしてサハリンに渡り、南下してサハリンから北海道へとつなぎ環日本海物流ルートの完結である。



サハリンから北海道宗谷岬までの宗谷海峡は延長51.4kmと長い水深60～67mと一定していることと、冬期を考慮してトンネル案であるが、トンネルズリを転用して築島による一部橋梁案も考えられる。



過日の新潟日報（6月17日付け）にサハリン（間宮海峡）に架橋計画（鉄道）が報じられていた。水深が浅いので橋梁タイプが選定されやすいが、将来的な維持管理や特に冬期間の管理面から大きなリスクを抱えた計画であると考えられる。

この日韓技術士会議の時、コーディネーター兼通訳をされた全相伯氏（㈱韓国総合建築士事務所社長）に新幸州大橋の落橋について聞くことができた。落橋原因は、設計の未熟不備、施工及び施工管理の未熟、経験不足などであるとのことであった。

その改善策として、施工者の施工能力を判断するために、合わせて入札の不正防止のためにPQ制度（事前資格審査制度）が導入されたとのことである。



会議終了後の現地見学会：全相伯氏と朝鮮南北戦争時の捕虜収容所跡にて

韓国で導入されたPQ制度は入札の途中段階で抽選という行為が挿入されており、日本では最終決着の際に抽選行為が行われるのと異にしている。それは入札後に+5～-5%の札を裏返して引き、入札金額に乘じさらに事前付与点数が乘じられて入札決定者が決まるもので、契約金額は札入れした金額である。

なぜこのような仕組みを導入したのかと尋ねたら、「国民に対する談合防止策の説明である」との明快な回答であった。確かにこの仕組みでは入札前に決定者を決めてもその確証は極めて薄いものとなる。

当時土木部監理課の入札係長へ勉強に訪韓しませんか、と言ったところ大変興味を示したが、監理課長のところでダメ押しされた。

その後も全相伯氏との交流が続いたが、平成19年1月に㈱キタックを退社してからは途絶えていた。しかし、その後訪韓の機会があり、また交流が復活するのである。

（この続きは次号にて）

プロフィール

山岸俊男（やまぎしとしお）

昭和14年新潟県新津市（現：新潟市秋葉区）生まれ。昭和38年新潟大学卒業、新潟県入庁。土木部道路建設課長など歴任し、平成10年退職。同年から㈱キタック専務取締役、平成19年1月退社。平成19年から23年まで新潟大学工学部非常勤講師。現在は新潟水辺の会副代表。

著書・論文に「新編防雪ハンドブック」（日本建設機械化協会、共著）、「君ならどうする？」—建設技術者のための倫理問題事例集—（共著、公益社団法人地盤工学会）、「日本の土木遺産」（共著、公益社団法人土木学会）など。

「神無月と神在月」

中越交通株式会社 取締役営業部長 山崎 康裕

【神在月】

神無月（かんなづき）とは、和名で10月の事ですがこの語源は、定かでは有りませんが一説によりますと旧暦の10月に全国の八百万（やおよろず）の神様が出雲の国（島根県出雲市）に集まる月で、他の土地の神様が居なくなる為、「神無月」と言うそうです。一方、出雲の国では、全国の神様が在る「神在月（かみありづき）」と言っております。

出雲の国で全国の神々が集まる場所が出雲大社といわれております。今年は、60年に1度の「大遷宮（だいせんぐう）」の年に当たります。本殿をはじめ境内外の各神殿の屋根の葺き替えが行われ、旧暦の10月10日～（現在の11月12日～）に神々をお迎えする準備が整いました。（祭られている神様：大国主大神〈おおくにぬしのおおかみ〉）また、三重県の伊勢神宮でも20年に1度の「式年遷宮」の年に当たり、正殿（しょうでん）、御垣内（みかきうち）の建物を建て替え、殿内の御装束（おんしょうぞく）や神宝も新調する大祭が執り行われました。（祭られている神様：天照大神〈あまてらすおおかみ〉）

この2つのお社は、聖域の上位に数えられる「パワー

スポット」の代表格と言われております。規模的に考えても他の神社とは比べ物にならない聖地と考えられます。同じ様な土地として「諏訪大社」や「熊野大社」なども上げられます。

【出雲大社】

2020年「オリンピック・パラリンピック」が東京で開催される事が決り、日本国の「国づくり」の起爆剤になってもらいたいものです。そこで日本国を造ったと言われる「大国主大神」をまつ出雲大社をご紹介します。

大国主大神の別な呼び名は、「だいこくさま」です。昔から大変慕われている神様です。「天の下造らしし大神」と言われる様に「国を開拓・国づくり・村づくり」を進め、農耕・漁業のなどの生活の基礎を作り上げたそうです。また、霊力によって、住みよい日本の国土として「豊葦原瑞穂国（とよあしはらのみずほのくに）」と呼ばれました。この国づくりが完成すると、天照大神（伊勢神宮）に、その豊葦原の瑞穂国を譲ったそうです。神話の世界の話は難しい！

出雲大社は、「縁結び」で有名です。これは、全国



伊勢神宮内宮



出雲大社

の神々が出雲の国で神事（かみごと）を行う事から来ています。男女の結び付きも「人が予め知る事の出来ない人生などを神議り（かむはかり）で決める」と言われているからです。

国宝に指定されている現在の本殿は、1744年に造営され、これまで3度の遷宮が行われ、今年は60年ぶりとなる「平成の大遷宮」が行われました。遷宮とは、御神体や御神座を本来あったところから移し、社殿の屋根の葺き替えや修造し、再び御神体をお戻しする事です。この事業は、平成20年4月に、御祭神である大国主大神が御本殿から御仮殿に御遷座される「仮殿遷座祭」が執り行われ、平成21年から、修造工事が進められ、平成25年5月10日に「本殿遷座祭」も無事終了しました。今後も摂社・末社の改修は続けられ、平成28年までかかるそうです。

【島根観光】

出雲大社参拝の機会がありましたら、松江の観光も合わせてお訪ね下さい。松江城をはじめとして「小泉八雲記念館・旧宅」「武家屋敷」「塩見縄手」などが松江城の周りに点在していますので徒歩で散策出来ます。松江城を囲むように流れる堀川を和船で1時間かけて周遊する「堀川めぐり」も楽しいものです。

また、世界遺産石見銀山では、「代官所跡」や「大森の街並み」や「龍源寺間歩」「五百羅漢」「世界遺産センター」などを訪ねては如何でしょうか？



松江城



小泉八雲旧居



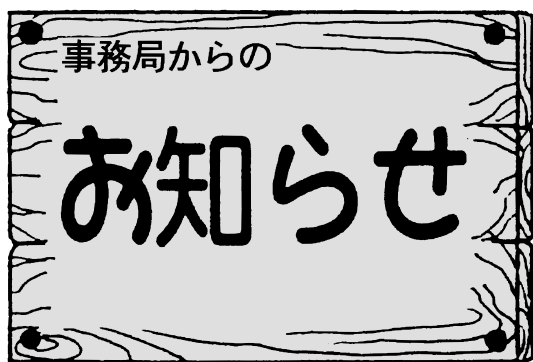
松江の武家屋敷



石見銀山「大森の街並み」



石見銀山「龍源寺間歩」



平成25年度「小学生のための出前講演」 新潟市立大形小学校

広報部会

小学校における出前授業

平成25年6月24日に、当協会に依頼がありました新潟市立大形小学校にて、出前授業を実施致しました。一昨年度より、新潟市学校支援課を訪問し、市内の小学校に出前講演のPRパンフレットを配布しております。大形小学校からは、昨年度も依頼があり、出前授業を行っています。

現在、小学校では、「総合学習」として、国際化や情報化をはじめとする社会の変化をふまえ、子供の自ら考え、自ら学ぶ生きる力に育成を目指す授業が行われており、自分たちの地域の環境、伝統や文化についての学習を取り入れています。

大形小学校からの講座内容の希望は「環境問題を広く講義し、児童たちが興味を持ったものを調べることを誘導するようなもの」でしたので、なるべく希望に沿うような内容で行いました。講座対象者は、大形小学校5年生の5クラス154名です。（水と環境をイメージしたマリナーズ5と呼ばれているそうです）講師は当協会員の3名です。



浜辺委員の挨拶

○出前授業概要○

出前授業の内容は「身近なところから環境について考えてみよう」とし、2部構成で行いました。前半のテーマは、「水質汚濁について」とし、講義の他、児童に簡単な実験を行ってもらいました。後半のテーマは、「環境について考えてみよう」とし、新潟の環境変化を中心に、児童に意見を述べてもらいながら、講座を行いました。講座時間は、前後半とも45分ずつとし、間に20分の休憩をとりました。



実験の様子

○前半「水質汚濁について」○

水の汚れの原因、影響についてわかりやすく説明した後、「パックテスト」を使用し、COD（化学的酸素要求量）をはかる実験を行いました。見た目が全く変わらない3種類の水を使用し、CODの違いを学んでもらいました。実験後は、まとめとして、汚濁水の処理および水質汚濁予防の必要性について話をしました。

全体を通して、児童たちは熱心にメモを取り、話を聞いていました。実験は、2班に分けて行い、各クラス10人程度でしたが、実験をしない児童も興味深く見ていました。実験する児童は、とても楽しそうでした。

○後半「環境について考えてみよう」○

環境とは何か？環境を守ることとは何か？ということ、わかりやすく説明した後、鳥屋野湯周辺の現在と60年程度前の2枚の写真を見せ、環境の変化について、意見を交わしました。写真の中で、具体的に变化したものを挙げてもらい、自然と技術が変化したことを学んでもらいました。まとめとして、環境学習とは自分の周りの環境を意識し大切にすること、環境変化や、新しい技術や取り組みについて知ることが大事であると話をしました。

鳥屋野湯周辺の変化の状況を見たときは、児童たちから驚きの声があがりました。具体的に变化したものは何かの質問に対しては、全体的に積極的に発言が見られました。また、自然の変化として蛍の話をしたが、児童たちは蛍のいる場所についても興味を示していました。



講師の説明に聞き入る生徒



出前講演の様子

○参加児童の感想文○

「建設コンサルタンツさんのお話を聞いて」

西村 葉

わたしが、お話を聞いて思ったことは、三つあります。

一つ目は、きれいな水でもパックテストで調べると、きたない水もあったということです。わたしは、きたない水だと少しにごっているかと思ったけど、きれいだったのでびっくりしました。

二つ目は、今と比べて、昔は船や川だったということです。今は、道路があって、車でいろいろなところに行けるけど、昔は川があって船で行っていたということがわかりました。

三つ目は、環境を守るしくみのことです。工場などは、決められた目標を守るため、汚れを外へ出さない技術を利用しているということです。工場の人々が汚れを出さない努力をしたり、汚れを掃除したりしているそうです。

これからは、ゴミをあまり出さないように、今日の勉強のことをいかしていきたいです。

「建設コンサルタンツさんのお話を聞いて事、感じた事」

植木 波菜

私は、今日、建設コンサルタンツさんのお話を聞いて、分かった事、心に残った事が2つあります。

1つ目は、水についてです。今日、パックテストというものを使って初めて実験しているところを見ました。そして水がよごれてしまうと、川がどのようなになってしまうのかも詳しく知ることができました。しかし、川の水がよごれてくると、酸素が少なくなり、最後は生き物がいなくなると聞いて、とても心配になりました。なので、私は今よりも川を大切に、まずは自分のできる身近な所から協力していきます。

2つ目は、環境についてです。環境については、最後のまとめがすごく印象に残りました。身の回りの環境を意識して大切にすること。この言葉を聞いて、私はマリナーズ5として、全校みんなの環境をかがやかせられるようにがんばろうと思いました。

今回の勉強は、環境、水についても知れたし、自分にとって、勇気、がんばろうという気持ちになりました。

「環境について考えて」

永野 猛蔵

ぼくは、環境にとっても興味をもちました。中でも一番調べたいと思ったのは、くらしの変化です。例えば、昔の行動が舟だったのに、今は車になっているということです。舟のよいところは、エネルギーを使わないことです。エネルギーを使わないと地球温暖化防止につながります。それに生き物がたくさんいられるということです。それに対して車のよいところは、人の力を使わなく、便利になったということです。でもよいところだけではありません。舟のわるいところは、風や雨のはげしいときに出かけることはできません。車のわるいところは、道路をつくるために、川をなくしてしまい、生き物が減ったりすることです。

ぼくは、こんな昔と今のちがいが、よいところ、わるいところを知り、どんなところで役立っているか、どんなところで、わるいところをしているかどんどん知ってゆきたいと思います。



実験の様子

○出前授業講師の感想○

今回は準備に時間を割くことができず、5年生（マリナーズ5）の「美しい水になろう」という学年テーマに沿った授業ができるのか不安でしたが、授業後に活発な質問が出たことから、多くの生徒が授業内容を理解できたと思われます。特に、学年テーマを掘り下げるため美しい水の一例として「ホテルの住める水」という話をしたのに対し、ホテルに関する質問が多く出たことで皆さんの理解の深まりを感じました。

（建設環境委員：藤本 隆則）

今年度は環境学習を始める6月開催であったことから、環境概念の理解をねらいとした授業を行いました。身の回りの環境と暮らしの変化について、子どもたちの生活に近い話題から興味関心を高めるように工夫しました。環境は常に変化していることと、今後どのように変化するかは一人一人の考えや行動によることを理解していただけたものと思います。ありがとうございました。

（建設環境委員：若尾 明弘）



出前講演の様子

○出前授業の総括○

参加児童の感想文より、今回の講座の目的は概ね果たせたかと思います。私語も少なく、熱心にメモをとる児童が多く、とても感心しました。講座の最初に建設コンサルタンツの役割についても簡単に話したため、子供たちに環境問題を考えると共に、建設コンサルタンツの名前が少しでも印象に残ることを望みます。

最後に今回の出前授業にあたり、大形小学校の児童、先生方皆様に感謝し、厚くお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

石川地区社会貢献活動『白山外来植物除去作業』

石川事務所

1. はじめに

当協会 CSR 活動の一環として、平成18年度より続く「白山外来植物除去作業」に今年も参加致しました。また当日は、協会員37名、一般参加者100名、合わせて137名の方々にご参加頂きました。



1. 開催直前の様子

2. 白山における外来植物問題

白山は、福井県、岐阜県、富山県、石川県の4県にまたがる山で、富士山、立山と共に日本三名山（日本三霊山）の1つとされています。

さらに、白山は「クロユリ」や「ハクサンオオバコ」、「ハクサンコスゲ」といった高山植物（在来種）の自生地としても有名で、また中腹にはブナの原生林が広がるなど、非常に生物多様性に富んだ地域です。

ところが近年では、観光客や登山者の増加に伴い、オオバコやフキ等の外来植物が侵入し、在来種を脅かす存在となっております。これは、登山者の荷物や靴の裏等に付着した外来植物の種子が気付かれずそのまま持ち込まれてしまうことが原因と言われております。

この状況を放っておくと、高山帯・亜高山帯の景観を悪化させるだけではなく、

- ・在来種の生息地の消失
- ・在来種との交雑による雑種の形成

といった問題を引き起こすこととなり、特にハクサン

オオバコについては、既に南竜ヶ馬場で外来のオオバコとの雑種が確認されております。またその雑種は、高山帯に適応した能力と強い繁殖力を兼ね備えているためどんどん繁殖するので、いずれ取り返しの付かない事態に陥ってしまう危険性があります。

3. 外来植物の除去作業について

(1) 目的と内容（オオバコの除去作業）

2. で挙げた問題を解決・軽減するために、様々な対策が実施されております。

今回のオオバコの除去作業もその活動の内の1つで、市ノ瀬の駐車場を利用する登山客の靴に種子が付着しないように、周辺に生育するオオバコを除去しました。なお、駆除方法については、白山自然保護センターの野上氏にレクチャーして頂きました。

方法としては、オオバコを根ごと掘り起こすというのではなく、「根切」という除草道具を用いて、オオバコの地上部だけを除去します。

これは、オオバコは地表から約1cm程度のところに生長点があるので、そこを除去すれば、たとえ根が残ってもそこからは再生できないためです。

作業自体は地道で単純なものです。黙々と、また時折談笑しながら、駐車場一面に広がるオオバコに根切をあて、1本1本、丁寧に除去していきました。



2. 根切を用いての除去作業

(2) 当日のスケジュール

当日は、下記のスケジュールで除去作業が行われました。

日時：平成25年6月23日

場所：市ノ瀬駐車場周辺（白山国立公園内）

〈タイムスケジュール〉

12時30分 受付開始

13時00分 挨拶、説明、その後除草作業

15時00分 休憩、オオバコ茶試飲

16時00分 作業終了 挨拶

(3) その他（オオバコ茶の試飲 etc…）

休憩時には、前もって用意されたオオバコを炒って作られた「オオバコ茶」を試飲させて頂きました。このお茶には咳止めや整腸作用等の薬としての効能があり、さらに体内の脂肪を排出してくれる働きもあるそうなので、ダイエットに用いるにも適しているとのことでした。



3. オオバコ茶

また、当日は昨年と同じく「バイオトイレ」が設置されました。これはおがくずとバクテリアを使用して分解・堆肥化するもので、水や電気をいなくても使用できるトイレとして期待されています。



4. バイオトイレ

4. 感想

今回の活動を通じて除去できたオオバコは、45ℓのポリ袋17個分でした。広大で貴重な白山の自然環境を保全するためにはまだまだ足りないとは思いますが、このような地道な作業を諦めずに続けていくことこそが、遠回りではありますが、白山を守っていくための大事な過程の1つであると、今回の活動に参加して実感致しました。

また当日は、参加者の中に小さなお子様も多く、ご両親やお友達と楽しそうに除去作業をしておりました。きっかけとしては些細なものかもしれませんが、これを機に自然環境や動植物について、少しでも強い興味・関心を持って頂ければと考えております。



5. 作業終了後の集合写真

社会貢献活動 「平成25年度ふるさと美化大作戦」参加

富山事務所

去る平成25年8月18日に建設コンサルタンツ協会北陸支部（富山事務所）の社会貢献活動として、富山市主催の「平成25年度ふるさと美化大作戦」に参加しました。



主催者挨拶

当清掃活動で、建設コンサルタンツ協会は道路管理者連絡協議会や他の団体の皆様と一緒に龍谷高校周辺を清掃しました。

学校の周りなので、学生たちが捨てるゴミも多いのかと思っていましたし、駅の近くということもあり、人通りも多いので結構ゴミが落ちているのではないかなと予想していましたが、全然落ちていなくて驚きました。

私たちがゴミ拾いをしているときに、町内の方たちもゴミ拾いをされていました。暑い中呼びかけて、多くの人が集まるのはすごいことだと思いました。それほど、地域の方が貢献されているので、きれいになっているのかなと思いました。なによりも、ゴミが少ないのは、地域の方が積極的にゴミを拾っているのか、一人ひとりのゴミをポイ捨てしないことへの意識が高いからなのではないかと思いました。

最近、自由にたばこが吸える場所が少なくなっているため、特定の場所ですが灰皿が完備されていたり、携帯灰皿を持ち歩いたりすることで、ポイ捨てによるゴミは減っていると思います。

当清掃活動は一見地道な活動であると思いますが、一つ一つの積み重ねが地域の美化意識を高めており、この活動を継続していくことの大切さを感じました。

今回の清掃活動に参加することによって穏やかな気持ちになりましたし、少しでも地域の人々にとって住みやすい環境になれば幸いです。さらに、よりいっそう地域に貢献したいという気持ちが強くなりましたし、今回の活動に限らず自分から積極的に社会貢献活動に参加していきたいと思いました。



説明を聞く参加者

何もしないのではなく、できなくても少しは役に立とうという気持ちで、何にでも参加していくことが大切です。そして、小さな取り組みを続けることで地域にも自分にも大きな成果につながります。

自分の周りへの意識が少しでも変われば、環境への関心も変わると思います。まずは、自分の目で周りをよく見てみるのが大切だと思いました。

平成25年度道路・トンネル技術講習会 参加報告

「北陸の地盤について」「交通事故発生状況と道路交通安全対策」

技術部会 道路委員会、トンネル委員会

1. はじめに

協会員の幅広い知識の習得と、技術者の継続教育の一環として、平成25年7月26日(金)午後1時より、富山県民会館において「道路・トンネル技術講習会」が開催された。



2. 講習会プログラム

第1部公演

北陸の地盤について

長岡技術科学大学 環境・建設係 教授
大塚 悟 氏

第2部公演

交通事故発生状況と道路交通安全対策

国土交通省 国土技術政策総合研究所

道路研究部 道路空間高度化研究室

研究官 尾崎 悠太 氏

3. 講演会の内容

3.1 第1部：北陸の地盤について

(1) 盛土設計の留意点

～盛土の耐震設計と補強土工法の活用～

①中越地震の盛土被害の特徴

中越地震の盛土被害状況について、盛土形式別の被災率は、両盛土が約25%、片盛土が約30%、片切片盛土が約50%であり、片切片盛土整備区間の被害が非常に多い状況である。(国道17号での分析結果)

盛土被害の特徴は、以下の通りである。

- a) 水平地盤上の盛土は変形するが、崩壊に至らない。
- b) 傾斜地盤上の盛土は、地下水の影響により変形すると崩壊する。
- c) 軟弱地盤上の盛土や軟弱な埋戻し土等で構築した盛土は、揺すり込み沈下により、BOX 敷設部では土工部との段差や BOX の目地開き等が発生する。

②盛土の崩壊機構

a) すべり破壊

地震動は上昇するほど増幅するため、変形しやすい盛土では、盛土天端に縦断(引張)亀裂が発生する。

亀裂が入ることによって、盛土は構造体としての耐力が著しく低下し、亀裂を通るすべり破壊に進展する。

b) 揺すり込み沈下

地震動の作用方向が変化する繰り返しの荷重により、盛土の個体としての強度が低下し揺すり込み沈下が発生する。

また、地下水があると過剰間隙水圧が発生し、有効応力の低下による強度低下も生じる。

③補強土壁の被害状況

補強土壁の工法別被害件数は、帯鋼補強土壁が約70件、アンカー式補強土壁が約45件、ジオテキスタイル補強土が約50件と帯鋼補強土壁の被害が最も多い。

被害の特徴は、盛土内に地下水が滞水したことによる、壁面のはらみ出し被害が多い。

④ジオテキスタイルを用いた補強土工法

a) 盛土の天端一体化工法(KABUTO 工法)

盛土の耐震設計を行う場合は、盛土天端のみを効率的にジオテキスタイルで補強し、地震時に盛土天端の引張亀裂の発生による強度低下を抑止する。

b) 二重壁補強土工法

補強土壁の被害は、前述③のとおり、盛土内の

地下水の滞水による壁面のはらみだしが多い。

二重壁補強土工法は、壁面材と補強盛土を取外し可能なベルトで連結し、壁面材と補強盛土の間には排水層として碎石を敷設することから、従来の補強土壁と比べて、盛土内地下水の排水性や壁面材の維持管理の向上を図ることが出来る。

c) 段差抑制対策

構造物の前後にジオテキスタイルを敷設することにより、地震等の不同沈下に対して車両の走行性を確保することが出来る。

d) 軟弱地盤対策への適用

盛土下にジオテキスタイルを敷設することにより、地震時等のすべり破壊対策、不同沈下対策、トラフィカビリティの確保を図ることが出来る。



長岡技術科学大学 大塚教授

(2) 切土設計の留意点 ～受け盤斜面の事例～

①受け盤斜面の事例

a) トップリングによる斜面の変形

講演された事例は、スレーキングを起こす泥岩で、凝灰岩の薄層を挟む受け盤構造の地盤において、長大切土のり面を構築する工事であった。

地盤は、断層や背斜構造により脆弱な地盤となっており、また地下水が豊富であった。

切土のり面には、トップリングによる変形が発生し、受け盤の倒れ込みにより、凝灰岩の薄層で小崖が形成され、深いすべり破壊に進展する危険性が生じた。

b) トップリングによる対策工

対策工は、アンカー工による緊急対策の外に、切土上部の排土による上載荷重の低減、地表面排水工による雨水の浸透防止、横ボーリングによる地下水の排除などの対策が図られた。

②斜面对策工の設計の留意点

事例による主な斜面对策工設計の留意点は以下の通り。

- a) 切土のり面の安定解析においては、切土の応力解放による地山の変形と強度低下を見込む必要がある。
- b) アンカー工を採用する場合は、節理面での変形のギャップによるせん断力の照査を行う必要がある。
- c) 斜面には排水処理を施し、雨水を極力浸透させない構造とする。
- d) アンカー整備後は、リフトオフ試験でアンカー緊張力のモニタリングによりアンカー工の健全度を調査する。

3.2 第2部：交通事故発生状況と道路交通安全対策

(1) 近年の交通事故発生状況

①死者数、死傷者数

戦後のモータリゼーションにより交通事故が社会問題化し、昭和45年には死者数が過去最多の16,700人となった。

この社会問題により、交通安全対策基本法が制定され、交通事故の死者数は減少していった。

近年においても、平成23年度で死者数は約4,000人、死傷者数は約82万人と減少傾向にある。

②近年の事故の特徴

- a) 事故死者数は、我が国の高齢化の進行によって、70才以上の高齢者が非常に多い状況であり、全体の半数を占めている。

b) 道路区分別死傷事故発生状況

- ・ 生活道路における死傷事故率は幹線道路の約2倍であり、このうち、歩行者・自転車の死傷事故率は幹線道路の4倍も発生している。
- ・ 幹線道路の事故発生状況は、追突事故が最も多い。生活道路の事故発生状況は、出会い頭の事故が最も多い。

事故類型は、幹線道路・生活道路いずれも人対車両である。

③トンネルにおける交通事故発生状況

全死傷事故件数に占めるトンネルでの事故は全体の1%であるが、延長当たりの事故件数は橋梁部及び土工部に比べ最も多い。

トンネル内での事故は、追突、車両単独、正面衝突

が多い傾向にある。

全体と比較すると、安全運転義務違反（前方不注意、動静不注意）や操作ミスによる事故が多い傾向である。



国土技術政策総合研究所 尾崎研究官

(2) 第9次交通安全基本計画と道路交通安全施策（事故ゼロプラン）

①交通事故対策の経緯

交通事故対策は、交通事故が急激に増加し「交通戦争」と呼ばれ社会問題となった1970年（S45）から交通安全対策基本法が制定された。

これによって、中央交通安全対策会議を設置することが義務づけられ、交通安全基本計画を5年ごとに作成することになり現在は9次計画が進められている。

②第9次道路交通安全の目標

a) 交通事故死者数（24時間死者）を平成27年までに3,000人以下とする。

b) 交通事故死傷者数を平成27年までに70万人以下とする。

③事故ゼロプラン

幹線道路（直轄国道）において、「選択と集中」、「市民参加・市民との協働」により重点的、効果的に交通事故の撲滅を図る「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」を推進している。

事故ゼロプランの内容は以下の通り。

a) 事故の危険性が高い区間の明確化（選択と集中）

- ・ 事故データを集計し、区間別の死傷事故率、重大事故の発生件数を分析する。
- ・ 地域住民、道路利用者、市町村等からの指摘により、潜在的な危険区間を調査する。

b) 情報の共有化（市民参加・市民との協働）

- ・ 危険区間の公表、注意喚起看板の設置、合同現地点検等による、市民の認識により事故削減効果

を期待する。

c) マネジメントサイクルによる対策の改善

- ・ 事故の危険性が高い区間の要因分析・対策立案・着手を行う他に、対策後の効果測定・分析を行い対策を更に改善する。

(3) 事故対策例

①交差点の速度抑制対策

a) 減速路面表示（ドットライン）の設置

交差点手前で速度を抑制するため、減速路面表示（ドットライン）を設置する。

b) 交差点のコンパクト化

左折時の速度を抑制するため隅切り半径を縮小する。

②交通誘導対策

a) カラー舗装、カラー標識による誘導

交差点手前で無理な車線変更を無くするため、進行方向を明確にする（判断時間を短縮させる）目的で、目的地別にカラー舗装とカラー標識で誘導する。

b) 排水性舗装

降雨時においても、カラー舗装が見やすくなるように、排水性舗装を施す。

4. おわりに

第1部の「北陸の地盤について」の講演では、盛土設計の留意点、切土設計の留意点ともに、地下水の状況が共通して重要であり、過剰間隙水圧や応力解放による、有効応力の低下が留意すべき点であることが大変勉強になりました。

第2部の「交通事故発生状況と道路交通安全対策」の講演では、質疑応答で事故ゼロプランの効果評価で用いられる民間プローブデータのお話がありました。

現在は、ホンダイインターナビの他に携帯アプリを使用したデータも取得しており、個別車両を特定できる情報も取得できるとのことでした。

また、民間プローブデータに関する指針が近日中に国土技術政策総合研究所より交付されるそうです。

最後に、大変貴重な講演をして頂いた講師の方から感謝し、この講習会で得たものを今後の業務に生かしていきたいと考えています。

平成25年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会

北陸支部業務・研究発表会WG

1. 開催の背景と目的

建設コンサルタンツ協会本部では、平成25年9月19日に建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として「業務・研究発表会」を開催することとなり、この開催に合わせて、北陸支部から推薦論文1編を選考することとなりました。

そこで、建設コンサルタンツ協会北陸支部（以下、北陸支部と略す。）では、「北陸支部業務・研究発表会WG」を結成して臨むこととなり、WGメンバーは技術部会の中で関係すると考えられる委員会（当時）から各1名推薦いただき、計5名で発足しました（平成24年6月28日に設置）。

北陸支部では、前述した通り、本部で開催する「業務・研究発表会」に適任者を推薦するだけでなく、北陸支部としての品質向上策（業務の質、プレゼン能力）の一環や建設コンサルタントとしての情報発信の場等と位置付けることも目的として開催することとしました。

2. 開催概要

(1) 対象業務と専門技術部門

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象者とし、平成23・24年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域（新潟県・富山県・石川県）における国・地方自治体等に関する業務・研究としました。また、専門技術部門は「河川、砂防及び海岸・海洋」「道路」「都市計画及び地方計画」「地質」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」の8部門としました。

(2) 選考方式

①第一次審査

平成25年2月下旬から同年5月15日までの間で参加者を募集したところ21編の応募がありました。審査は、北陸支部業務・研究発表会WGと北陸支部技術部会長の計6名で構成した北陸支部選考委員会にて、申込書に記載された「論文の概要」について新規性、市場性、

論理性の観点から厳正なる審査を実施して8編を選考しました。

②北陸支部業務・研究発表会（第二次審査）

平成25年8月8日に、第一次審査で選考された8編を対象とした「北陸支部業務・研究発表会」を開催しました。（当日の参加者総数95人）



発表を控えた発表者の皆さん



発表の様子

審査員は、審査委員長として新潟大学 大川教授、後援をいただいた北陸地方整備局、新潟県から各1名、北陸支部からは支部長、技術部会長の計5名で審査を実施しました。審査は、論文、プレゼン等の観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞、奨励賞、審査員特別賞の3論文を選考しました。



第二次審査の様子

(3) 大学との連携

本発表会は、新潟市を会場としたことから新潟県内で多くの土木系学生を輩出している新潟大学、長岡技術科学大学を対象に学生講演を依頼しました。両大学から、学生（大学院生）を推薦いただき、北陸支部業務・研究発表会で発表してもらいました。



講演後の質問に答える学生
(左から佐藤さん、長井さん)

また、審査委員長を務めていただきました新潟大学大川教授には、審査だけでなく基調講演も行ってもらいました。



基調講演の様子

3. 審査結果

表彰された3論文・発表者等を示します。

・支部長賞（本部推薦論文）

金沢市公共レンタサイクル「まちなり」の特徴と
新たなまちづくりの取り組み

発表者 片岸 将広 氏
(株)日本海コンサルタント

・奨励賞

ASRにより劣化したRC橋脚の補強とモニタリ
ング

発表者 浦 修造 氏
(株)国土開発センター

・審査員特別賞

手取川における礫河原の復元について

発表者 片桐 寿通 氏
(株)国土開発センター・金沢河川国道事務所



表彰の様子

4. おわりに

この度の北陸支部業務・研究発表会では、北陸地方整備局、新潟県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、お忙しい中にも関わらず、多大なご理解とご協力をいただき、大変有り難うございました。この場を借りてお礼申し上げます。

なお、来年度からは品質向上委員会が引き継ぐことになりましたので、今後とも、皆様からのご協力を賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

平成25年度 建設コンサルタント協会 「北陸支部災害時対応演習」と「北陸地方整備局との情報伝達訓練」

総括部会

1. 北陸支部災害時対応演習

平成25年9月2日(月)に、北陸支部会議室で、10:00～16:00災害時対応演習を行いました。



(支部独自様式のFAX送信)

災害発生時は、発生県の会社が主体的に対応することになるため、今年度の演習は、北陸支部包括区域である3県（以下、3地区と言う。）それぞれで支援対応の可否の確認が適切に行えるか確認することを目的に、3地区それぞれで災害が発生したと想定して臨みました。

具体的な演習状況を以下に示します。

午前10時に新潟で震度7強、富山・石川で震度6強の大規模災害が発生したと想定し、支部と会員の情報伝達訓練をスタートしました。

北陸支部独自様式の災害対策北陸現地本部の設置報告（様式-3）を10:15に3地区からそれぞれにFAXし、支援要請時の対応可否確認（様式-10）を10:30にFAXしました。

回答結果では、北陸支部全体では92%（60総括部会社中55社）県別では新潟地区が95%（41社中39社）富山地区が82%（11社中9社）石川地区が87%（8社中7社）でした。

今年度は、前年度回答率97%に対して低下した結果となった。そこで、この原因把握を目的に、訓練終了後に未回答会社に状況を確認したところ「実施日が月

の初めの月曜日で多くの書類が届いている中、北陸支部からのFAXもそこに紛れてしまい、分からなかった」との回答がほとんどでした。

2. 本部災害時対応演習

同日13時から、東北支部で大規模災害が発生したと想定した協会全体による訓練を行いました。

災害時対応演習は、スケジュールに沿って災害対策現地本部の設置・協会本部設置・各災害対策支部設置をメール送受信で対応しました。

東北支部からの各支部へ支援要請の依頼、最後に現地本部・協会本部・各災害支部の解散で終了いたしました。



(東北現地本部と対策本部とのメール受信)



(災害伝言ダイヤルの再生)

全て終了後、15:00から新潟地区委員で「今後の災害対応時の課題」をテーマとして会議を行いました。

北陸支部独自演習では、回答率低下原因を踏まえ、来年度は、書面が他の書類と紛れないようにするためにもメールの活用を視野に入れ、より迅速性・確実性を確保したい、さらには、平成16年中越地震時に北陸支部で作成した「災害時行動マニュアル」は、現在の支部の組織構成や動き等を踏まえたマニュアル改訂(10年たったので環境が変わった為)が必要ではないかという意見があり、これらについて早急に対応する事で出席者全員が確認しました。



(演習終了後の反省会)

3. 北陸地方整備局との情報伝達訓練

北陸地方整備局(以下、北陸地整と略す。)では、毎年、国交省職員を中心とした情報伝達訓練を開催しております。

今年度は、関係機関、業界団体との連携・広域的な受援訓練を行うことを目的としていたことから、災害協定を結んでいる建コン協北陸支部としても情報伝達訓練(机上訓練)に参加することになりました。

本訓練は、9月11日に実施し、その内容は、信濃川下流河川事務所からのリエゾン派遣要請に対する対応でした。

具体的には、信濃川下流河川事務所から北陸支部に対してリエゾン派遣の応援要請がFAXと電話で入り、北陸支部からはこの応援要請に対する報告をFAXで返信したという流れです。また、この報告後、速やかにリエゾン対応する技術者1名を信濃川下流河川事務所に出動させ、事務所で待機させました。

4. 今後に向けて

今後は、北陸支部としてもより迅速で確実な災害対応が図れるよう、

- ①ワンペーパーによる書面の簡略化(要請～対応までを可能となる様式検討)
- ②FAXだけでなく電子メールの併用
- ③北陸支部会員会社窓口の多重化(複数人の設置)
- ④北陸地整など災害協定締結機関との情報伝達の訓練実施・継続化など

に取り組んでいく必要があると考えますので、今後とも、北陸支部会員会社の協力をお願いしたい所存でございます。



建設コンサルタンツ協会北陸支部 防災講演会

釜石の奇跡に学ぶ

想定外の災害に どう備えるか

防災・減災対策をしても、その想定を超える災害は起き得ます。

最後に頼れるのは一人ひとりが持つ社会対応力です。

自分の命は自分で守る。さらにできるだけ多くの人も助けたい。

そのためにはどうしたら良いのでしょうか。

その時あなたはどうしますか。

その時のために、いま私たちは何をすべきなのでしょう。

この講演会は誰でも参加できます。そして、あなたにきっと役立ちます。

日時

2013

12月15日(日)

13:00～15:00(開場12:00)

場所

ANAクラウンプラザホテル新潟 2階
(新潟市中央区万代5-11-20)

定員

600名(先着)

参加費

無料

お申し込み方法

氏名・郵便番号・住所・電話番号を明記の上、①～③いずれかの方法でお申し込みください。

① はがき…〒950-0965

新潟市中央区新光町 6-1 興和ビル 内

建設コンサルタンツ協会 北陸支部防災講演会 宛

② FAX…025-282-3371

③ E-mail…bousai@hr-jcca.jp

締め切り…平成 25 年 11 月 25 日(月)

先着 600 名に後日聴講券を送付いたします。お申し込みいただいた個人情報は、本講演会の聴講券発送及び受付のみに使用いたします。

お問い合わせ先

建設コンサルタンツ協会北陸支部 電話 025-282-3370

<http://www.hr-jcca.jp>

【注意】

※講演のための駐車場は用意しておりません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※講演の録画、録音はお断りいたします。



講師

片田 敏孝氏 (かただ・としたか)

1960年岐阜県生まれ。

群馬大学理工学研究院教授。

2010年から同大学広域首都圏防災研究センター長を務める。

岩手県釜石市などで防災・危機管理アドバイザーを務め、防災教育を手がけていた釜石市の小中学校では、東日本大震災の津波の際、約3000人の児童生徒が生き抜いた。

その手腕に注目が集まっている。

NHK・Eテレ「シンサイミライ学校」(いのちを守る特別授業)をはじめ、テレビへの出演も多い。

JCCA

主 催：一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

後 援：国土交通省北陸地方整備局・新潟県・新潟市・新潟日報社

第28回

CPDS認定プログラム

北陸雪氷シンポジウム in 福井

★ 基調講演 ★ 【18日(月)】

『雪害対策への気象情報の利用』

～異常天候早期警戒情報の活用に向けて～

福井地方気象台 台長 鬼頭 博尚氏

★ パネルディスカッション ★ 【19日(火)】

『持続的な冬期道路交通確保をめざして』

～連携と協働～

コーディネーター

福井大学大学院 教授 福原 輝幸氏

★ 雪氷技術研究発表 ★ 【両日】

雪に関する取組・研究の発表

28編



会場【AOSSA】案内図



＜福井県福井市手寄1丁目4＞

平成25年

とき **11月18日(月)**
19日(火)

ところ **A O S S A (福井市)**

福井県県民ホール(8F)

福井市民交流プラザ(6F)

アクセス：JR北陸本線「福井駅」東口より 徒歩1分
えちぜん鉄道「福井駅」より 徒歩1分

主催／北陸雪氷技術研究会

構成／国土交通省北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、福井県、新潟市

東日本高速道路(株)新潟支社、中日本高速道路(株)金沢支社、北陸雪対策連絡協議会

(社)雪センター、(一社)日本建設機械施工協会北陸支部、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部

★ プログラム ★

18日 【1日目】	12:00～13:15	開場・受付
	13:15～13:25	開会挨拶 北陸雪氷技術研究会 会長 国土交通省 北陸地方整備局長
	13:30～14:20	基調講演 「雪害対策への気象情報の利用」 ～異常天候早期警戒情報の活用に向けて～ 福井地方気象台 台長 鬼頭 博尚氏
	14:35～17:15	雪氷技術研究発表 交流会
19日 【2日目】	9:00～10:00	雪氷技術研究発表
	10:15～11:45	パネルディスカッション 「持続的な冬期道路交通確保をめざして」 ～連携と協働～ コーディネーター 福井大学大学院 教授 福原 輝幸氏
	11:45～11:55	講評 北陸雪氷技術研究会 副会長 国土交通省 北陸地方整備局 道路部長
	11:55～12:00	閉会挨拶 福井県 土木部長
	12:00	閉会

★ 問い合わせ先 ★

北陸雪氷技術研究会事務局 国土交通省北陸地方整備局道路部地域道路課内
 ■TEL (025) 370-6742
 ■URL <http://www.hrr.mlit.go.jp/road/seppyo/index.html>

**第28回
北陸雪氷シンポジウム in 福井**
 平成25年11月18日～19日
 AOSSA 8F福井県 県民ホール・6F福井市民交流プラザ



アクセス： JR北陸本線「福井駅」東口より 徒歩1分
 えちぜん鉄道「福井駅」より 徒歩1分

第28回北陸雪氷シンポジウムは、CPDS認定の学習プログラムです。
 1日毎のユニット数は2unitで、2日間参加で4unitとなります。

第28回 北陸雪氷シンポジウム事務局 宛

〒950-8801 新潟市中央区美咲町1-1-1 国土交通省北陸地方整備局道路部地域道路課内

■TEL (025) 370-6742 FAX (025) 280-8917

第28回 北陸雪氷シンポジウム 参加申込書

※必要事項記入の上、FAXにてお申し込みください。

参加者氏名	所属名（役職名等）	シンポジウム （無料）	交流会 （4千円程度）
		※参加希望者欄に○印をご記入下さい	

申込者氏名（連絡者）	住 所
フリガナ	
	TEL () FAX ()
所属名（機関名または会社名）・役職	
フリガナ	

参加申し込みで得た情報については、個人情報に関する法令、規範に則り適正に管理いたします。
 また、『第28回北陸雪氷シンポジウム』の参加受付以外の目的では利用いたしません。

北 陸 支 部 活 動 報 告

平成25年 4 月 9 日

北陸支部会計監査受検

場 所／北陸支部会議室

実施者／監査役 新保 仁、山本 宏司

立会者／運営委員長 高田 一博

平成25年 4 月 9 日

平成25年度第 1 回役員会

場 所／興和ビル会議室

議 題／平成24年度監査報告

第31回北陸支部通常総会議案について

その他

平成25年 4 月24日

金沢工業大学説明会

場 所／金沢工業大学（3年生）

議 題／建設コンサルタントの概要について

その他

平成25年 4 月25日

平成25年度 北陸支部通常総会

場 所／新潟市内

総 会／第 1 号議案 平成24年度事業報告（案）

第 2 号議案 平成24年度決算（案）

監査報告

第 3 号議案 平成25年度事業計画（案）

第 4 号議案 平成25年度予算（案）

第 5 号議案 細則の制定（案）

第 6 号議案 役員選任

講演会／講師 芝浦工業大学 MOT 客員教授

谷口 博昭 氏（元 国土交通省事務次官）

演題 「これからのインフラと建設ビジネス」

平成25年 5 月 1 日

技術部会橋梁委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 5 月 8 日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1 名

内 容／道路概論(1) 道路構造令の解説と運用について
道路概論(2) 道路設計の概要について

平成25年 5 月 9 日

業務・研究発表 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／業務・研究発表会の開催について

平成25年 5 月10日

技術部会河川及び砂防委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 5 月10日

技術部会道路委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 5 月15日

建設技術報告会第 1 回実行委員会

場 所／北陸技術事務所

議 題／建設技術報告会の開催について

平成25年 5 月16日

技術部会委員長会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 5 月23日

技術部会都市計画委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

技術部会委員長会議報告

平成25年 5 月24日

本部と国総研・土研との意見交換会

場 所／東京都内

出席者／渡辺橋梁委員長

平成25年 5 月28日

広報部会会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 5 月29日

北陸橋梁保全会議幹事会

場 所／新潟国道事務所

出席者／松浦事務局長

平成25年 5 月30日

本部と橋建協との意見交換会

場 所／東京都内

出席者／近藤橋梁委員

平成25年 6 月 4 日

技術部会品質向上委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

技術部会委員長会議報告

平成25年 6 月 4 日

総括部会会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

平成25年 6 月 5 日

業務・研究発表 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／業務・研究発表会の開催について

平成25年 6 月 7 日

第41回プレストレストコンクリート技術講習会（後援）

場 所／新潟市内

講 演／「プレストレスト技術による建築物の防災・減災・強靱化」

「PC 工学会の国際化の取組み」

「道路橋のメンテナンス－臨床から戦略－」

「鉄道橋の維持管理」

「PC 鋼材の展望」

参加者／130名

平成25年 6 月12日

広報部会会誌編集委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／雪の音118号の内容確認

会員名簿の確認

雪の音119号の発刊計画

平成25年 6 月13日

技術部会建設環境委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／平成25年度事業計画について

技術部会委員長会議報告

平成25年 6 月14日

平成25年度災害復旧事業技術講習会（共催）

場 所／新潟市内

内 容／「災害査定業務の支援ツール Photog-CADについて」

「Photog-CAD システムの取扱い操作について」

「災害採択の基本原則」

「改良復旧事業について」

「災害査定における留意事項」

「災害復旧工法」

「被災状況と採択事例」

参加者／185名

平成25年 6 月23日

石川事務所社会貢献活動

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除

場 所／白山国立公園

内 容／外来植物除去作業

参加者／137名 協会会員37名

平成25年 6 月24日

出前講演（大形小学校）

場 所／新潟市立大形小学校

内 容／環境等について

① パックテストを使用した実験について

② 環境全般について

参加者／5年生 150名

平成25年 6 月27日

平成25年度第2回役員会

場 所／新潟市内

議 題／協会本部運営委員会、通常総会資料報告

新入会について

各部会行事予定等について

その他

平成25年 7 月 3 日

業務・研究発表 WG

場 所／北陸支部会議室

議 題／業務・研究発表会の開催について

平成25年7月4日

けんせつフェア北陸 in 金沢幹事会

場 所／新潟国道事務所

出席者／松浦事務局長

平成25年7月5日

第8回設計業務品質確保研究会

場 所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、真嶋品質向上委員長、
渡辺橋梁委員長、涌井河川及び砂防委員長

平成25年7月10日

出前講演（富山生活学校）

場 所／富山市内

内 容／講演 富山県職員 田子康彦氏
「サクラマスは河川環境のかがみ」

参加者／38名

平成25年7月10日

平成25年度 道路橋示方書改訂に伴う技術講習会（協賛）

場 所／石川県金沢市内

内 容／講演「最近の技術管理業務の概要」
技術講習「道路橋示方書改訂に伴う既製コンクリート
りート報いの施工に関連する変更点」について
技術講習「コピタ型プレボーリング杭工法」について
技術講習「コピタ型プレボーリング杭工法積算基準
（案）」について

参加者／89名

平成25年7月11日

北陸地方建設副産物対策連絡協議会

場 所／北陸地方整備局

出席者／佐藤建設環境委員長

平成25年7月12日

出前講演（立山女性サロンの会）

場 所／富山市内

内 容／中尊寺通り整備における住民共働型景観デザイン

参加者／20名

平成25年7月16日

本部と北陸地方整備局等との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局 野田局長他11名

新潟県 佐野技監他1名

富山県 江幡建設技術企画課主幹

石川県 寺西技術管理室課長補佐

新潟市 井村技監他2名

本 部 大島会長他14名、北陸支部 寺本支
部長他21名

平成25年7月16日

北陸雪氷記述研究会第1回運営委員会

場 所／新潟国道事務所

出席者／佐藤都市計画委員

平成25年7月17日

新潟県土木部との意見交換会

場 所／新潟市内

出席者／新潟県 大野技術管理課長他3名
北陸支部 小野塚新潟地域委員長他5名

平成25年7月23日

平成25年度 マネジメントセミナー（本部主催）

場 所／新潟市内

講 師／本部担当委員会委員

内 容／「建設コンサルタントとマネジメント」
「PFI事業の今後の展望と建設コンサルタントの役割」
「CM業務導入の課題」
「環境配慮の動向と建設コンサルタントの役割」
「マネジメントシステムの実効性の向上」
「品質の確保・向上に向けて」

参加者／国2名、県8名、政令市3名、会員51名、非
会員2名、計66名

平成25年7月23日

平成25年度 防災エキスパート講習会（後援）

場 所／新潟市内

講 演／「我々が創り上げてきた地域防災力モデル」
「地域を巻き込んだ防災教育」

参加者／81名

平成25年7月24日

金沢大学説明会

場 所／金沢大学（85名）

議 題／建設コンサルタントの概要について
その他

平成25年 7月26日

道路・トンネル技術講習会

場 所／富山市内

講 演／「北陸の地盤について

～道路、トンネル設計における留意点～」

「交通安全対策

～道路による交通安全対策について～」

参加者／36名

平成25年 8月 2日

第8回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内

講 演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」

「活断層と地震防災を考える

～新潟・長野・富山・石川の活断層～」

参加者／186名

平成25年 8月 6日

第8回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内

講 演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」

「活断層と地震防災を考える

～新潟・長野・富山・石川の活断層～」

参加者／82名

平成25年 8月 6日

金沢河川国道事務所との意見交換会

場 所／金沢市内

出席者／金沢河川国道事務所 有野事務所長他 6名

北陸支部 新家石川地域委員長他17名

平成25年 8月 7日

第8回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内

講 演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」

「活断層と地震防災を考える

～新潟・長野・富山・石川の活断層～」

参加者／100名

平成25年 8月 8日

建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会

場 所／新潟市内

内 容／基調講演

「総合学としての建設～工学の中の何でも屋さん～」

新潟大学 工学部建設学科 教授 大川 秀雄氏

業務・研究発表 8編

学生講演 2編

参加者／120名

平成25年 8月 9日

第8回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内

講 演／「最近の国土交通行政の取り組みについて」

「活断層と地震防災を考える

～新潟・長野・富山・石川の活断層～」

参加者／43名

平成25年 8月 9日

けんせつフェア北陸 in 金沢実行委員会

場 所／北陸地方整備局

出席者／佐々木広報委員長

平成25年 8月18日

富山事務所社会貢献活動 ふるさと富山美化大作戦

場 所／富山市内

内 容／清掃活動

参加者／24名

平成25年 8月22日

広報部会会議

場 所／興和ビル会議室

内 容／広報の重要性について

活動状況の確認について

平成25年 8月26日

建設副産物対策連絡協議会新潟県下越分科会

場 所／新潟国道事務所

出席者／若尾建設環境委員

平成25年 8月26日

講師派遣

派遣先／新潟県

派遣数／1名

内 容／橋梁Ⅲ（行政編）

平成25年 8月29日

講師派遣

派遣先／新潟県

派遣数／1名

内 容／橋梁の維持管理Ⅰ

平成25年9月2日

防災演習

場 所／北陸支部会議室

内 容／FAX及びメールによる送受信

参加者／高田運営委員長 他5名

平成25年9月4日

平成25年度第3回役員会

場 所／金沢市内

議 題／協会本部定例運営会議等報告

平成25年度災害時対応演習について

本部と北陸地方整備局等との意見交換会について

支部と北陸地方整備局との意見交換会について

本部からの支部助成金等について

「共催」について

各部会行事予定について

その他

平成25年9月5日・6日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／7名

内 容／「道路設計」

道路全般

平面線形基礎演習(1)、(2)

縦断線形基礎演習

河川橋計画基礎演習(1)、(2)

横断設計基礎演習

平面交差点基礎演習

重力式擁壁の安定計算

平成25年9月11日

セメント系固化材セミナー（後援）

場 所／金沢市内

講 演／総論「セメント系固化材の地盤改良への多様な展開」

地盤改良の原理と改良土の特性

深層改良

建築基礎地盤の改良

固化処理と環境

トピックス 「地盤改良の耐震効果」

参加者／120名

平成25年9月11日

北陸地方整備局と連携した防災演習

場 所／北陸支部会議室

内 容／情報伝達訓練及びリエゾン派遣の実施

参加者／青木総括部会長 他3名

平成25年9月11日

第9回設計業務品質確保研究会

場 所／北陸地方整備局

出席者／横山技術部会長、渡辺橋梁委員長、
涌井河川及び砂防委員長

平成25年9月19日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／5名

内 容／「橋梁Ⅰ（下部工の設計・施工編）」

下部工設計のための地質調査の基本

下部工の設計の基本

下部工の施工とその留意事項

下部工設計時における仮設構造物の計画

橋梁設計のエラー事例

平成25年9月20日

技術部会委員長会議

場 所／北陸支部会議室

議 題／道路橋技術相談窓口対応について

出席者／横山技術部会長、渡辺橋梁委員長、渡辺道路委員長
涌井河川及び砂防委員長、桐沢トンネル委員長

平成25年9月20日

技術部会橋梁委員会

場 所／北陸支部会議室

議 題／道路橋技術相談窓口対応について

平成25年9月20日

橋梁技術講演会

場 所／新潟市内

講 演／「鋼橋の性能照査技術と将来の課題」

「日本鋼構造協会『鋼構造物の疲労設計指針・
同解説（2012年版）』の紹介」

「NEXCO 東日本における構造物の損傷と対
策事例」

参加者／87名

平成25年 9 月27日

新潟地域委員会

場 所／北陸支部会議室

内 容／意見交換会の議題について

平成25年 9 月30日

講師派遣

派遣先／新潟県建設技術センター

派遣数／1 名

内 容／「橋梁Ⅱ（上部工の設計・施工編）」
橋梁設計のエラー事例

平成25年 9 月30日

砂防学会通常総会並びに研究発表会「新潟大会」第1回
実行委員会

場 所／新潟県

出席者／寺本支部長、涌井河川及び砂防委員長

平成25年 9 月30日

若手技術者育成支援検討会（第1回）

場 所／北陸地方整備局

出席者／北陸支部若手技術者育成支援検討 WG
竹内リーダー、片岸サブリーダー



社団法人 建設コンサルタンツ協会北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
朝 日 航 洋 (株)	北 陸 空 情 社	950-0088 新潟市中央区万代 2-3-6 (新潟東京海上日動ビル 2 F)	025(249)1150 025(249)1155
旭 調 査 設 計 (株)	本 社	950-0908 新潟市中央区幸西 1-1-11	025(245)8345 025(245)8349
ア ジ ア 航 測 (株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-28 (パーク新潟東大通ビル)	025(243)3246 025(247)7969
(株) ア ル ゴ ス	本 社	944-0009 妙高市東陽町 1-1	0255(72)3448 0255(72)9426
アルスコンサルタンツ(株)	本 社	921-8116 金沢市泉野出町 2-1-1	076(248)4004 076(248)4174
い で あ (株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-1 (K D X 新潟ビル)	025(241)0283 025(243)5650
(株) エ イ ト 日 本 技 術 開 発	新潟営業所	943-0804 上越市新光町 1-4-52	025(522)7570 025(522)7786
エ ヌ シ ー イ ー (株)	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-4-11	025(285)8540 025(285)3531
大 原 技 術 (株)	本 社	940-0856 長岡市美沢 3-275	0258(35)4511 0258(36)3254
応 用 地 質 (株)	新 潟 支 店	950-0864 新潟市東区紫竹 7-27-35	025(274)5656 025(271)6765
(株) オ リ エ ン タ ン ツ コ ン サ ル タ ン ツ	北 陸 支 店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (ブレイス新潟 4 F)	025(244)7881 025(244)7387
開 発 技 建 (株)	本 社	950-0914 新潟市中央区紫竹山 7-13-16	025(245)7131 025(245)7132
(株)開発技術コンサルタント	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 3-33-3	025(233)0204 025(233)6465
川 崎 地 質 (株)	北 陸 支 店	950-0914 新潟市中央区紫竹山 5-7-5	025(241)6294 025(241)6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北 陸 支 店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通 1-2-34	025(257)1888 025(257)1880
北 建 コ ン サ ル (株)	本 社	933-0941 高岡市内免 3-3-6	0766(23)3666 0766(23)3987
(株) キ タ ッ ク	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 10-2	025(281)1111 025(281)0002
(株) 協 和	本 社	933-0838 高岡市北島 1406	0766(22)2100 0766(22)7602
(株) ク リ エ イ ト セ ン タ ー	本 社	951-8133 新潟市中央区川岸町 2-8-1	025(232)7121 025(232)7130
(株) ク レ ア リ ア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山 4-19-13 (ハイムオカザキ)	025(248)2205 025(248)2206
(株) 計 画 情 報 研 究 所	本 社	920-0025 金沢市駅西本町 2-10-6	076(223)5445 076(223)4144
(株) 建 成 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	933-0014 高岡市野村 284-1	0766(25)6097 0766(25)5697

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
建設技研コンサルタンツ(株)	本 社	933-0007 高岡市角 602-1	0766(21)6126 0766(21)6192
(株) 建 設 環 境 研 究 所	新 潟 支 店	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 7 F)	025(285)6437 025(280)9750
(株) 建 設 技 術 研 究 所	北 陸 支 社	950-0088 新潟市中央区万代 4-4-27 (新潟テレコムビル)	025(245)3883 025(241)9082
(株) 建 設 技 術 セ ン タ ー	新潟営業所	957-0056 新発田市大栄町 7-6-3	0254(21)3100 0254(21)3101
(株) 構 造 技 研 新 潟	本 社	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 8 F)	025(282)3337 025(282)3323
国 際 航 業 (株)	新 潟 支 店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (ブレイス新潟)	025(247)0318 025(241)4146
(株) 国 土 開 発 セ ン タ ー	本 社	921-8033 金沢市寺町 3-9-41	076(247)5080 076(247)5090
国 土 防 災 技 術 (株)	新 潟 支 店	950-2042 新潟市西区坂井 1035-1	025(260)2245 025(260)7522
五 大 開 発 (株)	本 社	921-8051 金沢市黒田 1-35	076(240)6588 076(240)6575
サンコーコンサルタント(株)	北 陸 支 店	950-2055 新潟市西区寺尾上 4-4-15	025(260)3141 025(268)4950
(株) 上 智	本 社	939-1351 砺波市千代 176-1	0763(33)2085 0763(33)2558
(株)新日本コンサルタント	本 社	930-0142 富山市吉作 910-1	076(436)2111 076(436)3050
相 互 技 術 (株)	本 社	950-0994 新潟市中央区上所 2-11-14	025(283)0150 025(283)0152
(株)大東設計コンサルタント	新 潟 支 店	950-0086 新潟市中央区花園 2-1-16 (三和ビル)	025(246)1320 025(247)3740
大日本コンサルタント(株)	北 陸 支 社	930-0175 富山市願海寺 633	076(436)7855 076(436)6030
(株)ダイヤコンサルタント	北 陸 支 店	950-2001 新潟市西区浦山 4-1-24	025(234)2110 025(234)2111
舘 下 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	本 社	939-3553 富山市水橋の場 234	076(478)0090 076(478)1190
中 央 開 発 (株)	北 陸 支 店	950-0982 新潟市中央区堀之内南 3-1-21 (北陽ビル)	025(283)0211 025(283)0212
(株) 中 部 コ ン サ ル タ ン ト	本 社	933-0866 高岡市清水町 3-5-9	0766(21)4536 0766(22)4370
(株) 長 大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル 6 F)	025(288)0271 025(288)0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口 1-19-31	025(244)8445 025(249)4776
(株)東京建設コンサルタント	北 陸 支 社	950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル)	025(248)3870 025(248)3877
東 京 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	新 潟 支 店	950-0912 新潟市中央区南笹口 1-1-12 (クラスターナインビル 8 F)	025(246)1827 025(246)7463
(株) 東 洋 設 計	本 社	920-0016 金沢市諸江町中丁 214	076(263)6555 076(233)1224
ナチュラルコンサルタント(株)	本 社	921-8066 金沢市矢木 2-147	076(246)1171 076(246)4489

会 社 名	事業所名	〒 住 所	電話番号 FAX 番号
(株)ナルサワコンサルタント	本 社	950-0964 新潟市中央区綱川原 1-21-11	025(282)2070 025(284)7993
(株)日本海コンサルタント	本 社	921-8042 金沢市泉本町 2-126	076(243)8258 076(243)0887
日 本 工 営 (株)	新 潟 支 店	950-0962 新潟市中央区出来島 1-11-28	025(280)1701 025(283)0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8	025(243)0431 025(241)1806
(株) ニ ュ ー ジ ェ ッ ク	北 陸 支 店	950-0911 新潟市中央区笹口 2-10-1 (W I N 21 4 F)	025(243)4471 025(243)4472
パ シ フ ィ ッ ク コ ン サ ル タ ン ツ (株)	北 陸 支 社	950-0917 新潟市中央区天神 1-1 (プラーカ 3 6 F)	025(247)1341 025(246)1005
(株) パ ス コ	新 潟 支 店	950-0916 新潟市中央区米山 3-1-63	025(243)0051 025(241)8654
(株) プ ラ ネ ッ ト ・ コ ン サ ル タ ン ト	本 社	920-0353 金沢市赤土町ト 95-1	076(268)1206 076(268)1207
北電技術コンサルタント(株)	本 社	930-0858 富山市牛島町 13-15	076(432)9936 076(432)4280
北 陸 コ ン サ ル タ ン ト (株)	本 社	939-8213 富山市黒瀬 192	076(493)7717 076(493)7720
三 井 共 同 建 設 コ ン サ ル タ ン ト (株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通 2-5-8 (東大通野村ビル)	025(244)2503 025(244)2573
明 治 コ ン サ ル タ ン ト (株)	北 陸 支 店	950-2002 新潟市西区青山 1-1-22	025(265)1122 025(265)1126
八千代エンジニアリング(株)	北 陸 支 店	950-0088 新潟市中央区万代 1-1-1 (朝日生命新潟ビル)	025(243)5454 025(243)5883
(一社) 北陸地域づくり協会	本 部	950-0197 新潟市江南区亀田工業団地 2-3-4	025(381)1020 025(383)1205
(財)新潟県建設技術センター	本 部	950-1101 新潟市西区山田 2522-18	025(267)4804 025(267)4854

各部会・委員会委員名簿

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		齋 藤 真 晴	開発技建(株)
		金 子 慶 一	(株)国土開発センター
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
		西 潟 常 夫	(株)キタック

対 外 活 動 部 会			
部 会 長		寺 本 邦 一	開発技建(株)
		新 家 久 司	(株)国土開発センター
		吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
		小野塚 眞 一	(株)キタック
		大 平 則 夫	エヌシーイー(株)
		矢 田 弘	(株)東京建設コンサルタント
		田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
		長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
幹 事		坂 上 悟	開発技建(株)
新 潟 地 域 委 員	委員長	小野塚 眞 一	(株)キタック
	委 員	阿 部 良 満	エヌシーイー(株)
	委 員	山 岸 守	開発技建(株)
	委 員	上 田 茂 樹	(株)クリエイトセンター
	委 員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	委 員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
富 山 地 域 委 員	委員長	吉 田 攻	大日本コンサルタント(株)
	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
	委 員	吉 田 勉	(株)上智
	委 員	大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
	委 員	栄 知 之	北陸コンサルタント(株)
石 川 地 域 委 員	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	委 員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

総 括 部 会			
部 会 長		青 木 和 之	エヌシーイー(株)
		佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
		大 浦 淳	大日本コンサルタント(株)
		浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
		西 潟 常 夫	(株)キタック

		間 瀬 義 昭	開発技建(株)
		高 野 一 博	大原技術(株)

技 術 部 会			
部 会 長		横 山 徹 成	開発技建(株)
道 路 委 員 会	委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
	委 員	平 岸 純	(株)国土開発センター
	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
	委 員	神 田 和 久	開発技建(株)
橋 梁 委 員 会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
	委 員	渋 木 薫	エヌシーイー(株)
	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
	委 員	小 原 隆 一	(株)東洋設計
	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
河川及び砂防委員会	委員長	涌 井 正 樹	(株)キタック
	委 員	永 矢 貴 之	(株)建設技術研究所
	委 員	亀 田 満	(株)国土開発センター
	委 員	佐 藤 裕 司	五大開発(株)
	委 員	岡 田 和 美	大日本コンサルタント(株)
	委 員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
	委 員	木 村 幸 雄	開発技建(株)
	委 員	小 柳 徹	(株)キタック
	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
ト ン ネ ル 委 員 会	委員長	桐 沢 芳 広	(株)オリエンタルコンサルタンツ
	委 員	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
	委 員	小 林 博 実	エヌシーイー(株)
	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
	委 員	平 野 吉 彦	(株)キタック
	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都 市 計 画 委 員 会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
	委 員	荘 司 洋 文	(株)キタック
	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建 設 環 境 委 員 会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)
	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
	委 員	高 田 弘 幸	大日本コンサルタント(株)

	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
	委 員	藤 本 隆 則	(株)キタック
	委 員	平 野 博 範	(株)国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
	委 員	清 原 宏 二	開発技建(株)
	委 員	森 将 恒	(株)キタック
	委 員	大 越 敏 行	大日本コンサルタント(株)
	委 員	若 林 修	東京コンサルタンツ(株)
	委 員	野 村 尚 樹	(株)日本海コンサルタント
	委 員	山 森 茂 明	(株)クリエイトセンター
	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋 浦 慎	開発技建(株)
	委 員	内 山 徹	エヌシーイー(株)
	委 員	島 健	(株)キタック
	委 員	大 関 一 成	(株)クリエイトセンター
	委 員	湯 川 幹	(株)国土開発センター
	委 員	野 入 英 明	大日本コンサルタント(株)

広 報 部 会			
部 会 長		齋 藤 真 晴	開発技建(株)
広 報 委 員 会	委員長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
	委 員	澤 田 伸 也	大日本コンサルタント(株)
	委 員	瀧 上 彰	アルスコンサルタンツ(株)
	委 員	佐 復 正 典	(株)建設技術研究所
	委 員	新 川 行 男	(株)国土開発センター
	委 員	吉 橋 章	パシフィックコンサルタンツ(株)
	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
	委 員	川 本 勝 之	開発技建(株)
	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
	委 員	佐 藤 洋 子	(株)構造技研新潟
	委 員	中 島 亮 子	開発技建(株)
	委 員	佐 藤 恵	相互技術(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
	委 員	猪 俣 孝 之	大日本コンサルタント(株)
	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター

編集後記

航空自衛隊曲技飛行チーム「ブルーインパルス」が国立競技場の青い空に五輪の輪を描いたのは1964年。それから56年後の2020年に東京五輪が決定しました。

東日本大震災復興五輪として、明るい目標を持てることを素直に喜びたいと思います。

アベノミクスを後押しする経済効果、1965年から70年まで続いた「いざなぎ景気」のような好景気、をも期待して。

猪瀬東京都知事が「チームニッポンが素晴らしいチームワークで戦ったことが招致の実現に大きな力をもたらした」との言葉がとても印象的でした。

努力を積み重ね、計画的に、真剣に、そしてすべてを結集すれば、結果を得られるということでしょう。

拉致問題や福島第一原発問題もチームワークで、オールジャパンですべてを結集すれば乗り越えられるのではないのでしょうか、そんな思いになります。

このたび「雪の音」の編集に参加させていただくことになりました。

皆様からご意見、ご指導をいただき、会誌編集委員として、チームの一員として編集に携わってまいります。よろしくお願いいたします。

さて、2020年夏、立て替えられた新国立競技場の空に「ブルーインパルス」が何を描いてくれるのでしょうか、ざらり太陽の空に、楽しみにしたいと思います。

熊 倉 孝 次



雪 の 音 Vol.119

発 行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
北陸支部

〒950-0965

新潟市中央区新光町6番地1
(興和ビル)

TEL(025)282-3370・FAX(025)282-3371

会誌編集委員会

委員長 須藤 勝彦

委員 齋藤 浩幸 猪俣 孝之

熊倉 孝次

印 刷 (株)第一印刷所



発行：一般社団法人建設コンサルタント協会北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル
TEL (025) 282-3370 FAX (025) 282-3371